
現況整理資料編 目次

1. 現況整理.....	2
1・1. 人口.....	2
1-1-1. 市全体.....	2
1-1-2. 都市計画区域.....	2
1-1-3. 用途地域.....	3
1-1-4. 人口集中地区.....	3
1-1-5. 人口動態.....	4
1-1-6. 将来人口.....	4
1-1-7. 人口分布.....	5
1・2. 世帯数.....	10
1-2-1. 市全体.....	10
1-2-2. 人口集中地区.....	10
1-2-3. 世帯分布.....	11
1・3. 産業.....	15
1-3-1. 商業.....	15
1-3-2. 観光.....	15
1-3-3. 農林漁業.....	17
1-3-4. 港湾.....	19
1・4. 市街地形成の経緯.....	20
1・5. 都市機能.....	21
1-5-1. 行政機能.....	21
1-5-2. 介護福祉機能.....	22
1-5-3. 子育て機能.....	23
1-5-4. 商業機能.....	24
1-5-5. 医療機能.....	25
1-5-6. 金融機能.....	26
1-5-7. 教育・文化機能.....	27
1・6. 土地利用.....	28
1-6-1. 自然環境.....	28
1-6-2. 土地利用現況.....	28
1・7. 建物.....	32
1-7-1. 建物用途.....	32
1-7-2. 建築年別建物分布状況.....	33
1・8. 交通.....	34
1-8-1. 鉄道.....	34
1-8-2. バス.....	36
1-8-3. 自動車交通動.....	38
1・9. 下水道.....	41

1・10. 災害ハザード.....	43
1・10-1. 洪水	44
1・10-2. 津波	48
1・10-3. 内水	49
1・10-4. ため池.....	49
1・10-5. 土砂災害	50
1・10-6. 地震	51
1・11. 財政	58
1・11-1. 歳入	58
1・11-2. 歳出	58
1・11-3. 財政力指数	59
2. 上位関連計画の整理	60
2・1. 対象計画の整理.....	60
2・2. 石川県成長戦略（令和 5 年 9 月）	61
2・3. 七尾都市計画区域マスタープラン（平成 30 年 5 月）	62
2・4. 第 2 次七尾市総合計画（令和元年 5 月）	63
2・5. 七尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第 2 期）（令和 3 年 9 月）	64
2・6. 七尾市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（平成 27 年 10 月、令和 2 年 7 月一部 見直し）	64
2・7. 石川県創造的復興プラン（令和 7 年 4 月）	65
2・8. 七尾市戦略的復興プラン（令和 7 年 2 月）	66
2・9. 第 2 次七尾市環境基本計画（平成 31 年 3 月）	67
2・10. 七尾市地球温暖化対策実行計画（令和 5 年 12 月）	68
2・11. 七尾市あったかプラン（七尾市老人福祉計画・第 9 期介護保険事業計画）（令和 6 年 3 月）	69
2・12. 第 3 次七尾市地域福祉計画（令和 3 年 3 月）	70
2・13. 第 2 期七尾市子ども・子育て支援事業計画（令和 2 年 3 月）	71
2・14. 七尾市学校施設長寿命化計画（令和 3 年 4 月）	72
2・15. 七尾市公共施設等総合管理計画（令和 4 年 3 月）	73
2・16. 七尾市産業振興促進計画（令和 2 年 2 月）	73
2・17. 七尾市地域公共交通計画（令和 5 年 3 月）	74
2・18. 七尾市景観計画（平成 27 年 10 月）	75
2・19. 七尾市地域防災計画（令和 4 年 10 月）	76
2・20. 七尾市国土強靱化地域計画（令和 2 年 3 月）	78
2・21. 七尾市 SDGs 未来都市計画（令和 5 年 7 月）	79
2・22. 第 2 次七尾市空き家等対策計画（令和 7 年 3 月）	80

1. 現況整理

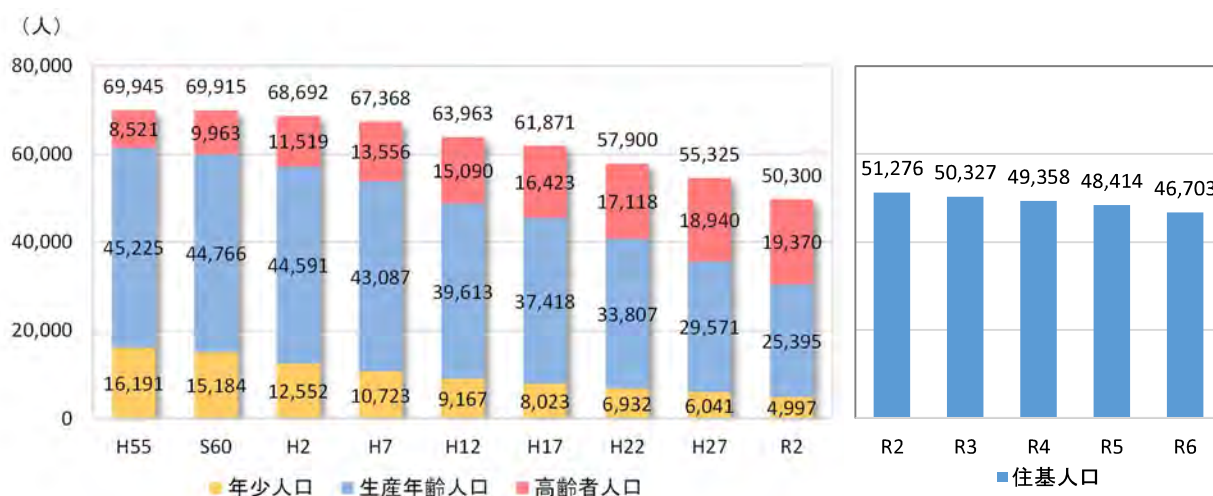
1-1.人口

1-1-1.市全体

本市の総人口は減少傾向が続き、昭和55年から令和2年の40年間で約20,000人（約28%）が減少している。特に年少人口と生産年齢人口が減少し、老年人口が増加する傾向が長期的に続いており、少子高齢化が進んでいる。

令和2年では、年少人口割合が9.9%、生産年齢人口が50.5%、老年人口割合が38.5%となっている。

令和2年以降の市全体の人口を住民基本台帳により確認すると、引き続き減少傾向で推移している。また、令和6年能登半島地震後の人口（令和6年10月）は前年の令和5年と比較して、約1,700人減少しており、例年（おおむね950人減）よりも大幅な減少となっている。



出典）左図：各年国勢調査、右図：住民基本台帳（各年10月）

図1-1 人口推移（市全体）

1-1-2.都市計画区域

七尾都市計画区域の人口は減少傾向が続き、平成7年から令和2年の25年間で約8,400人（約19%）が減少している。



出典）都市計画基礎調査（H7～H27）、国勢調査（R2）

図1-2 人口推移（都市計画区域）

1-1-3用途地域

用途地域の人口は減少傾向が続き、平成 22 年で一度 20,599 人まで減少した後、平成 27 では若干増加し 21,577 人に回復するものの、令和 2 年では再び減少に転じているが平成 7 年から令和 2 年の 25 年間で約 6,500 人（約 15%）が減少している。



出典）都市計画基礎調査（H7～H27）、国勢調査（R2）

図 1-3 人口推移（用途地域別）

1-1-4人口集中地区

人口集中地区人口は昭和 55 年では約 16,719 人であったが、令和 2 年には 10,006 人と約 40%の減少が見られる。

また、人口集中地区面積は平成 2 年までは約 290ha 程度で推移しているが、平成 7 年で急増し 360ha となった後、350ha 前後で推移している。

人口集中地区人口が減少している一方で、人口集中地区面積はほぼ横ばいであることから、人口集中地区における人口密度は低下している。

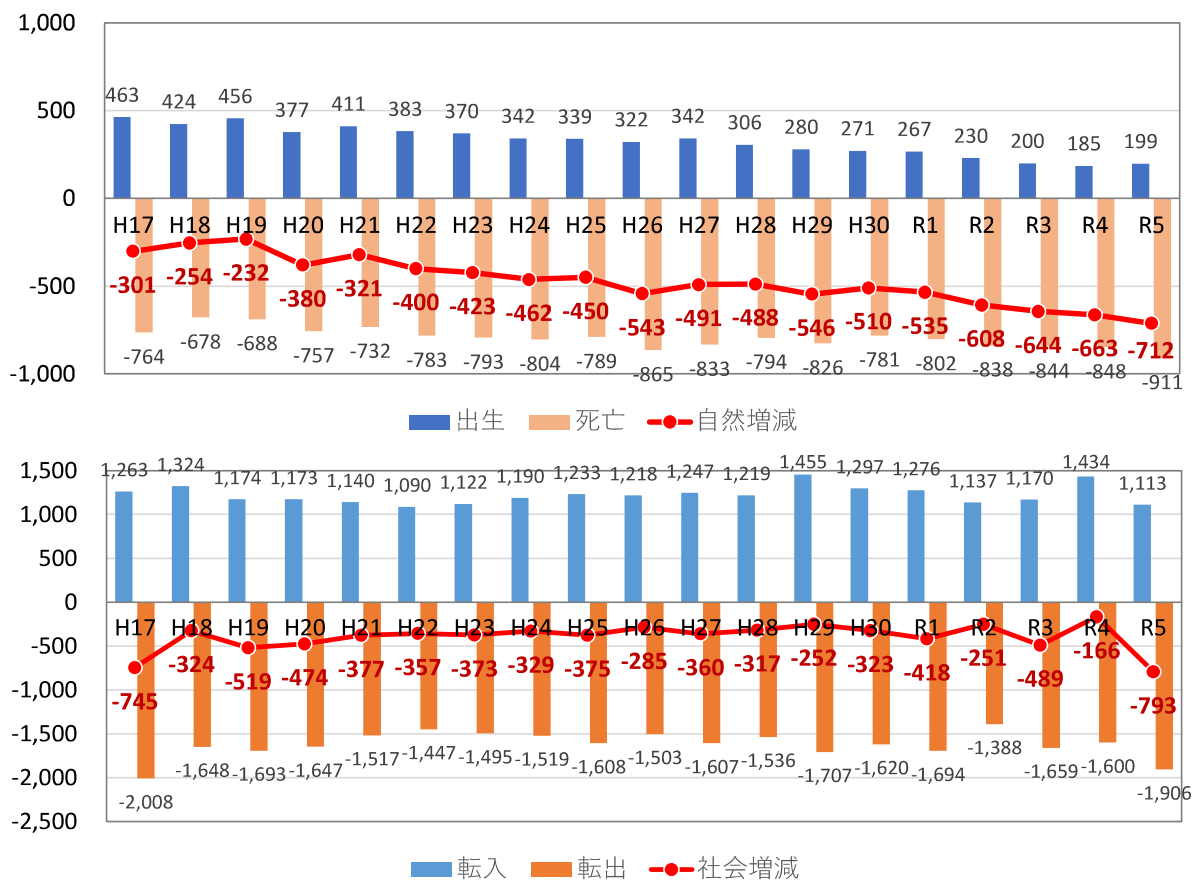


出典）各年国土数値情報

図 1-4 人口集中地区の変遷

1-1-5人口動態

本市の自然動態は、出生数を死亡数が上回る自然減で継続的に推移している。また、社会動態は、転入を転出が上回る社会減で継続的に推移している。

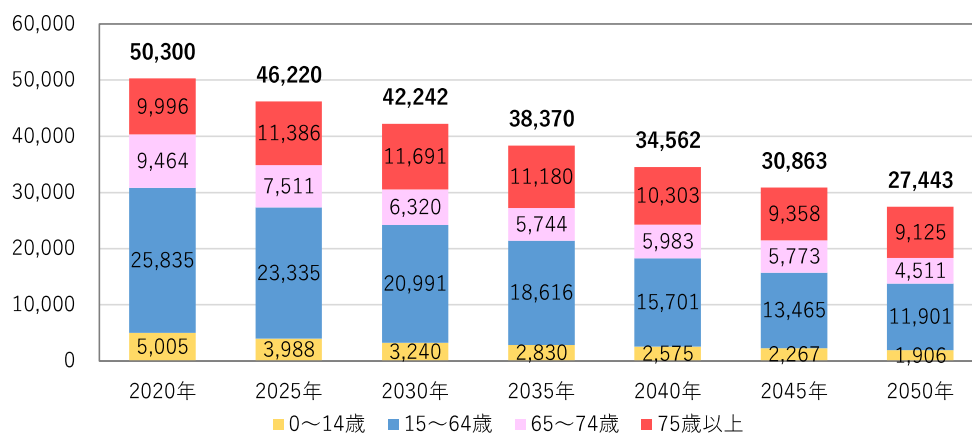


出典) 住民基本台帳

図 1-5 自然増減・社会増減の推移

1-1-6将来人口

国立社会保障人口問題研究所による推計によると、令和 2 (2020) 年以降、減少が継続していくことが想定されている。概ね 20 年後の令和 27 (2045) 年には、令和 2 (2020) 年から約 2 万人減少し、約 3 万人まで減少することが予測されている。



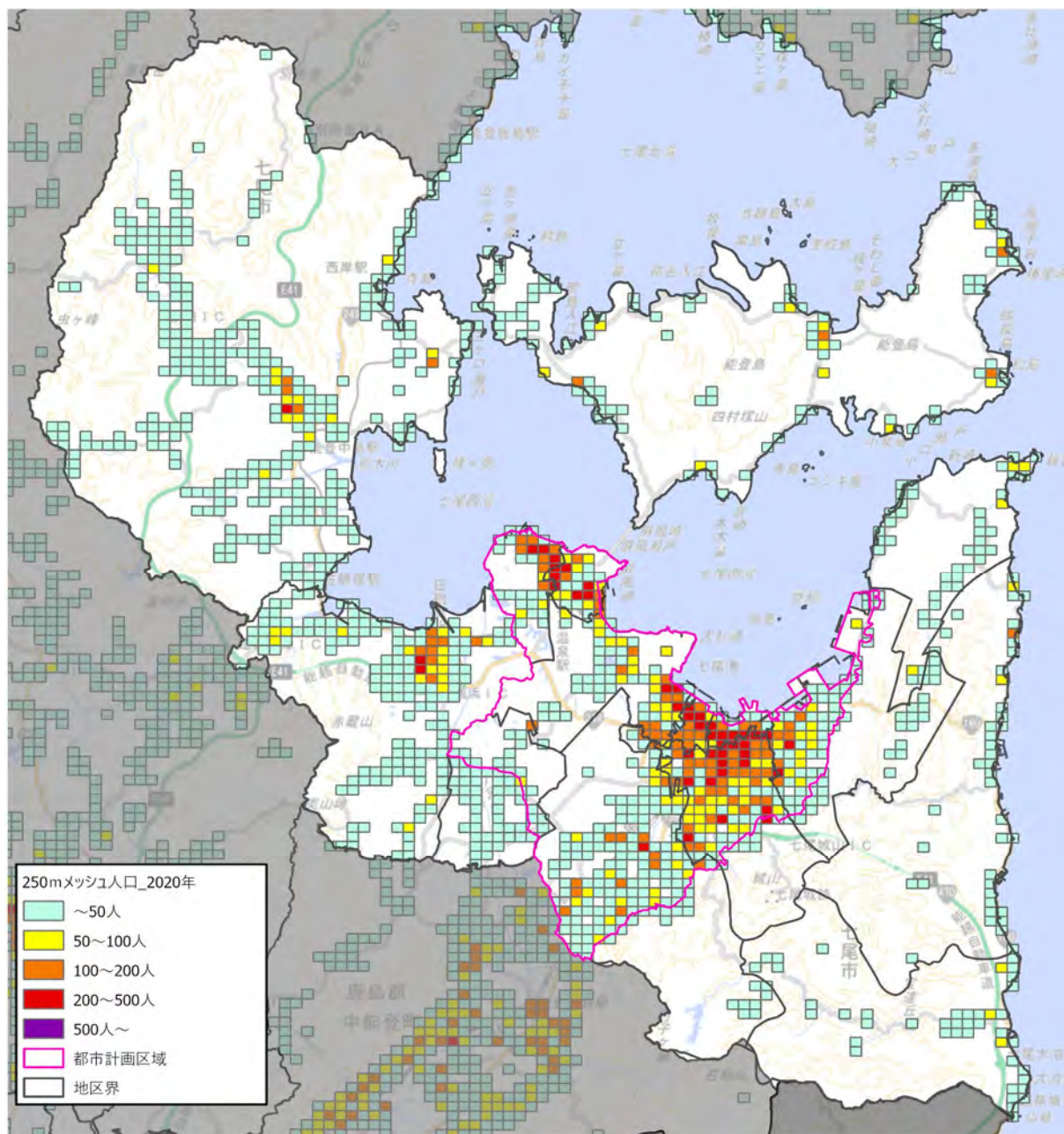
出典) 日本の地域別将来推計人口 (令和 5 (2023) 年推計国立社会保障人口問題研究所)

図 1-6 将来人口

1-1-7人口分布

(1) 2020 年人口分布

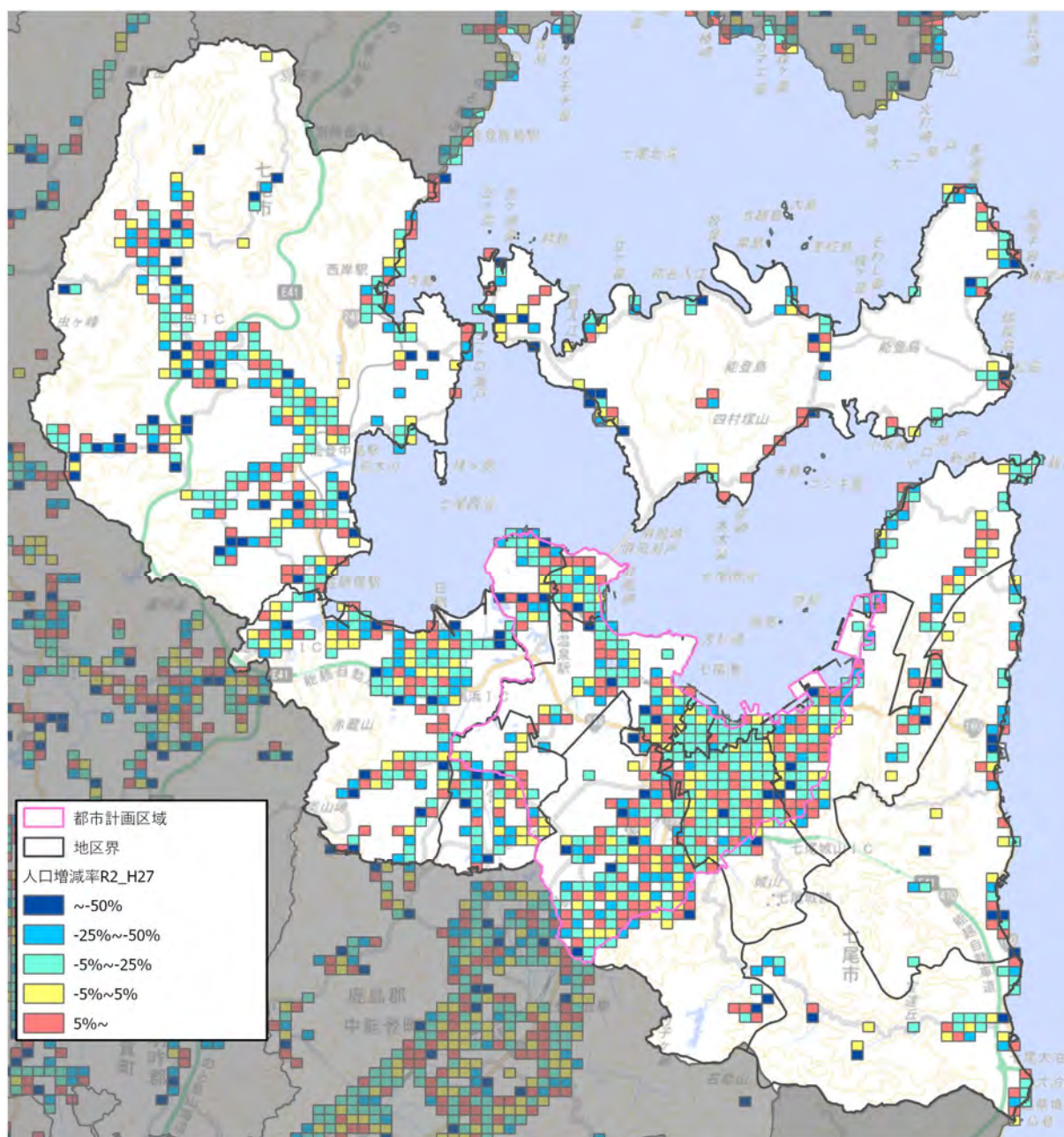
本市における人口分布は、都市計画区域内の七尾駅・七尾港周辺や和倉温泉街周辺で人口集積が見られる。また、都市計画区域外においても田鶴浜駅周辺や中島地区で一定の人口集積が見られる。



出典) 国勢調査、国土数値情報

図 1-7 人口分布(2020年)

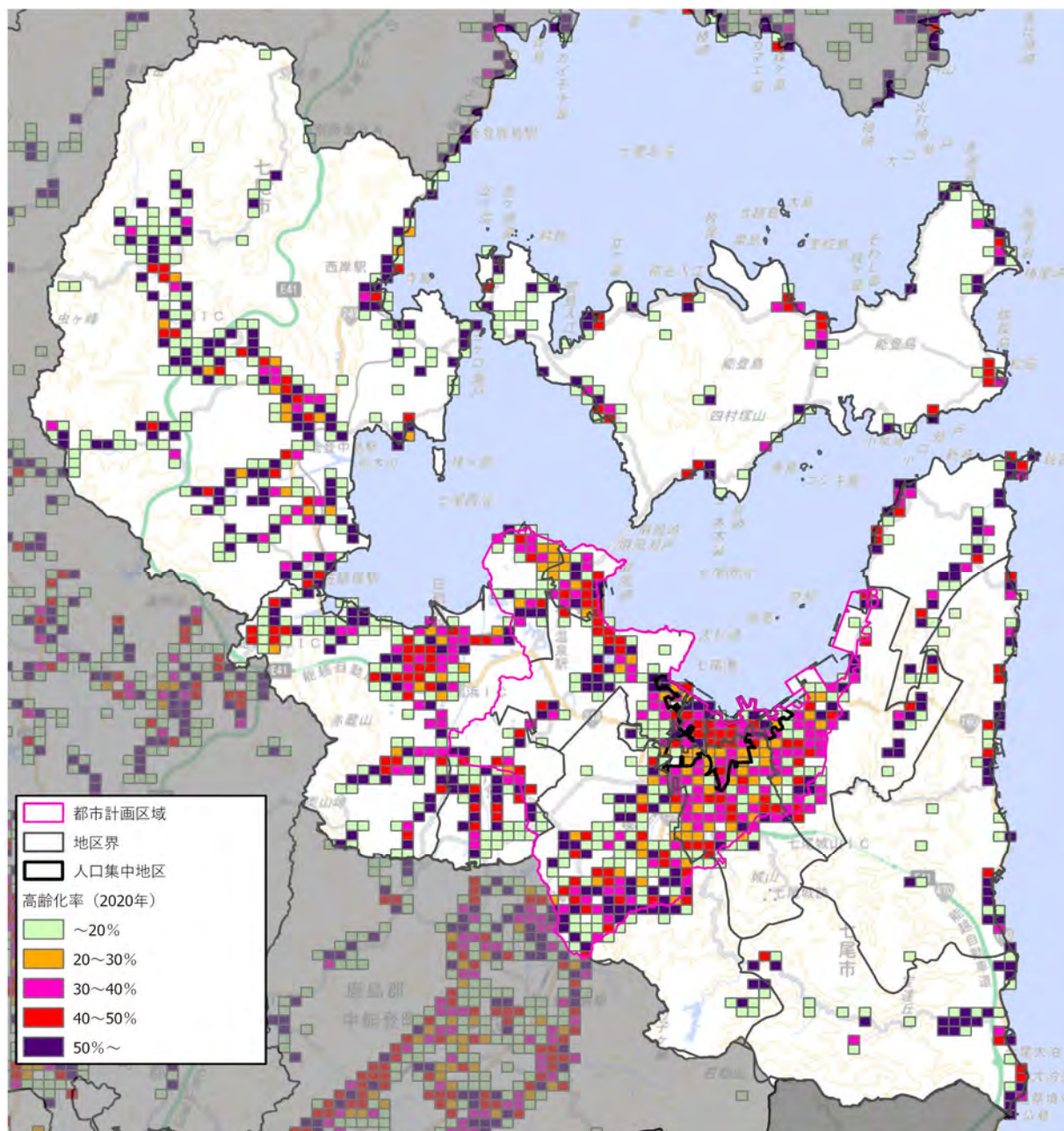
本市における人口増減は、市全体で人口減少が進んでいる傾向がみられる。都市計画区域内の七尾駅周辺の市街地も同様に人口は減少している。一方、都市計画区域の外縁部等では人口が増加している地域もみられる。



出典) 国勢調査、国土数値情報

図1-8 人口増減(2015年～2020年)

本市における高齢化率は、都市計画区域内の七尾駅・七尾港周辺や石崎漁港周辺で高齢化率40%以上の地域が見られる。また、都市計画区域外においては、田鶴浜駅周辺や中島地区で高齢化率40%以上の地域が見られる。さらに高齢化率50%以上の箇所が分散している。

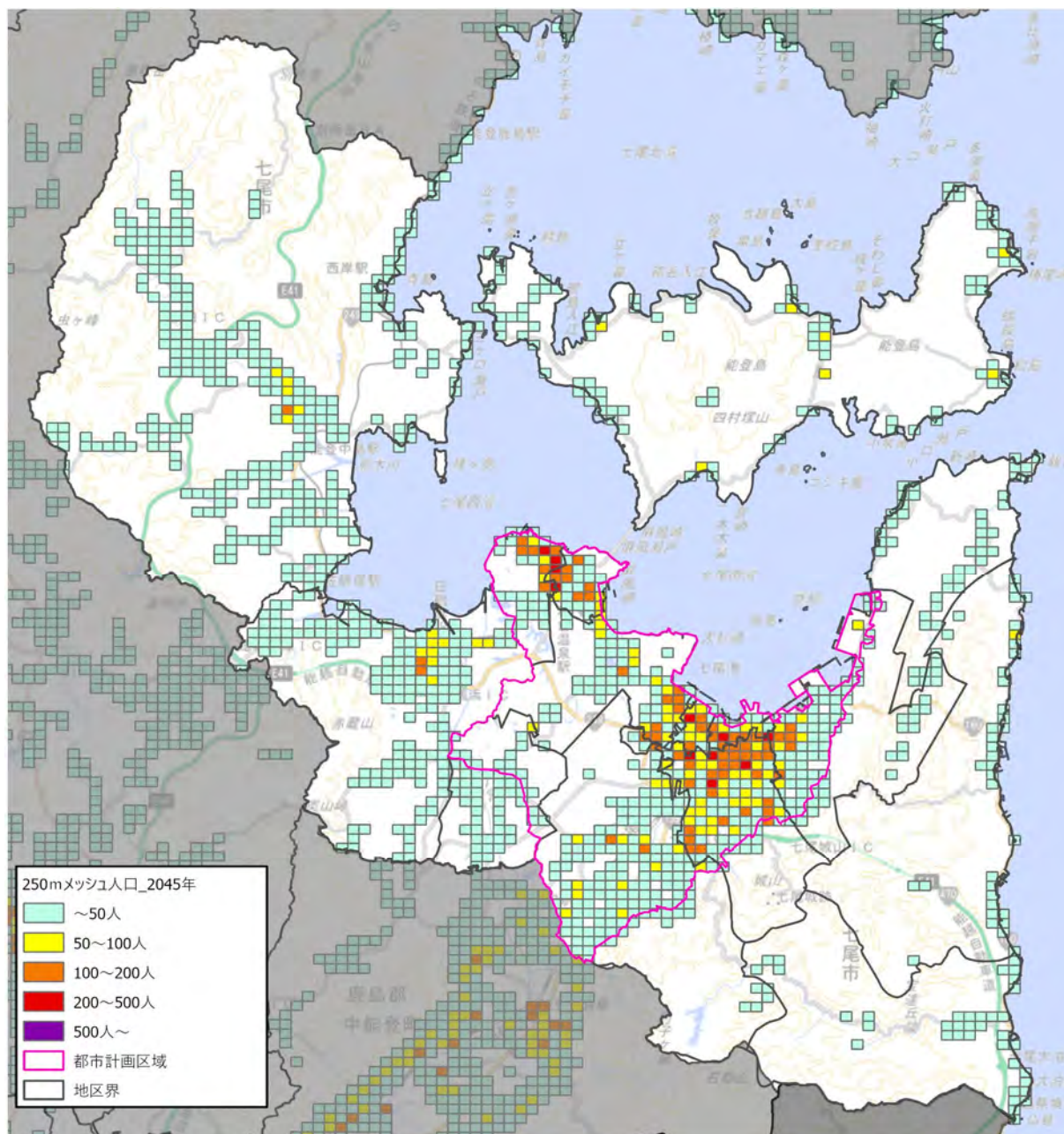


出典）国勢調査、国土数値情報

図1-9 高齢化率（2020年）

(2) 2045 年人口分布【推計】

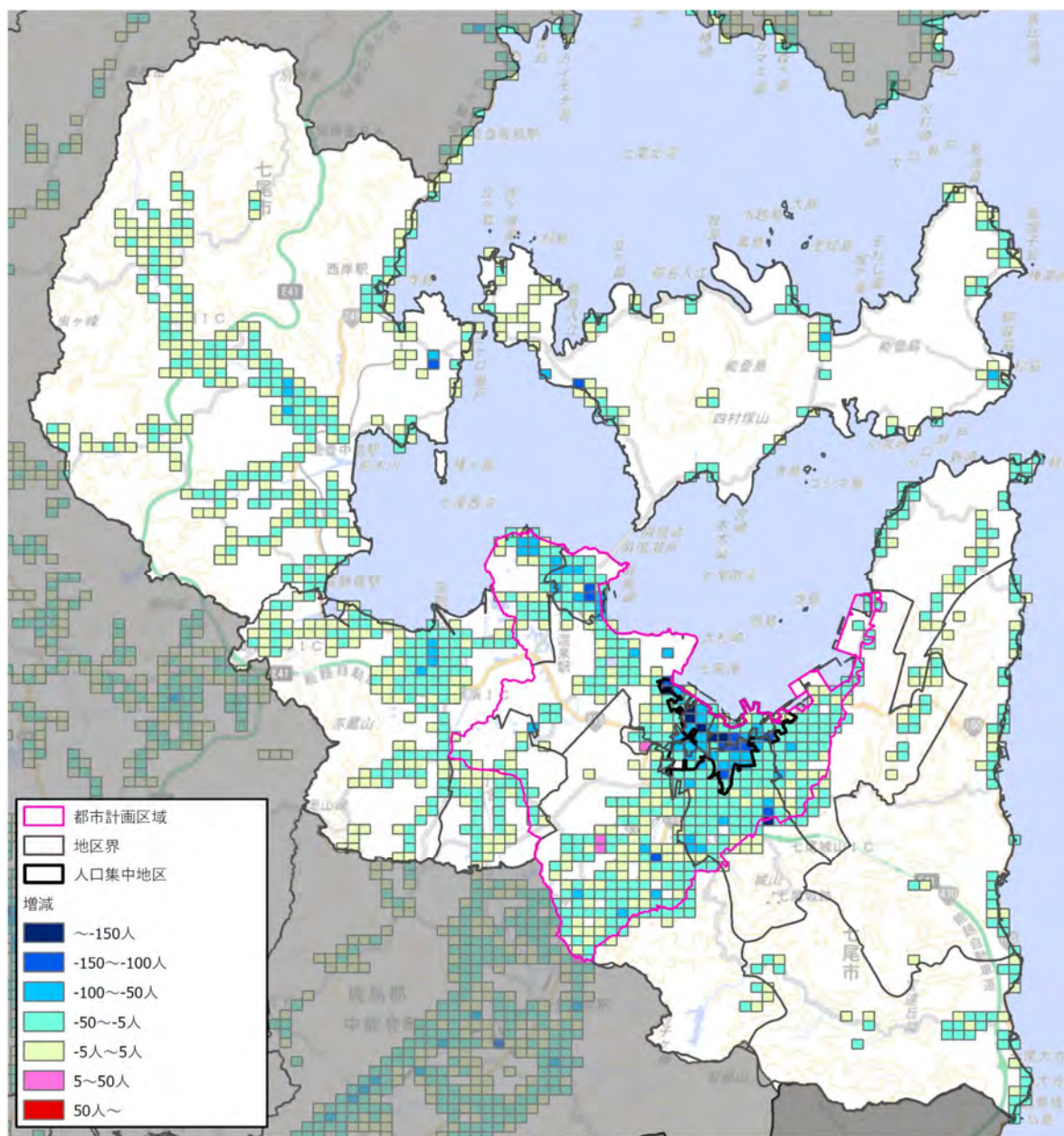
2045 年の人口分布（推計）をみると、七尾駅周辺や和倉温泉周辺の用途地域が指定された地域で、2020 年と比較すると人口減少が進むものの、一定の人口集積が維持されることが想定される。



出典) 国土数値情報 (R6 国政局推計)

図1-10 将来人口分布(2045年)

令和 2 (2020) 年から令和 27 (2045) 年の将来の人口増減をみると、人口集中地区となっている七尾駅周辺の中心市街地で人口減少が進むことが想定される。また、市全体で人口減少が進むことが想定される。



出典) 国土数値情報 (R6 国政局推計)

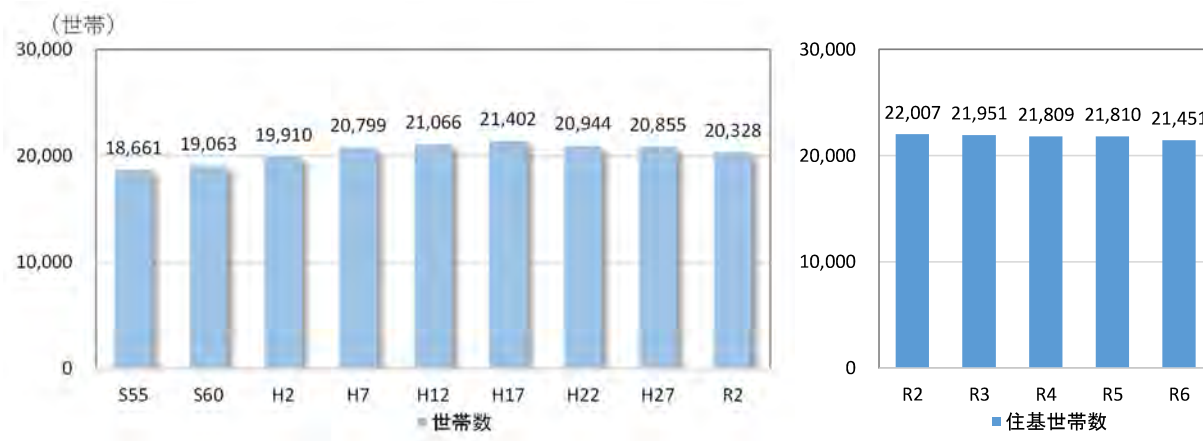
図 1-11 将来人口増減 (2020年～2045年)

1-2.世帯数

1-2-1.市全体

本市の世帯数は平成 17 (2005) 年まで増加し、その後は減少に転じている。平成 17 年 (2005) 年意向は減少が継続している。

令和 2 (2020) 年以降の市全体の世帯数を住民基本台帳により確認すると、引き続き減少傾向で推移している。

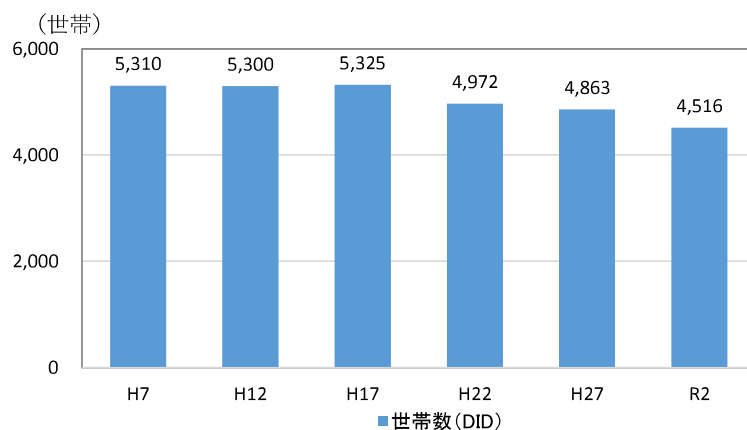


出典) 左図：各年国勢調査、右図：住民基本台帳（各年 3 月末）

図 1-12 世帯数推移（市全体）

1-2-2.人口集中地区

人口集中地区人口は平成 17 (2005) 年では 5,325 世帯であったが、令和 2 年には 4,516 世帯と約 15%の減少が見られる。

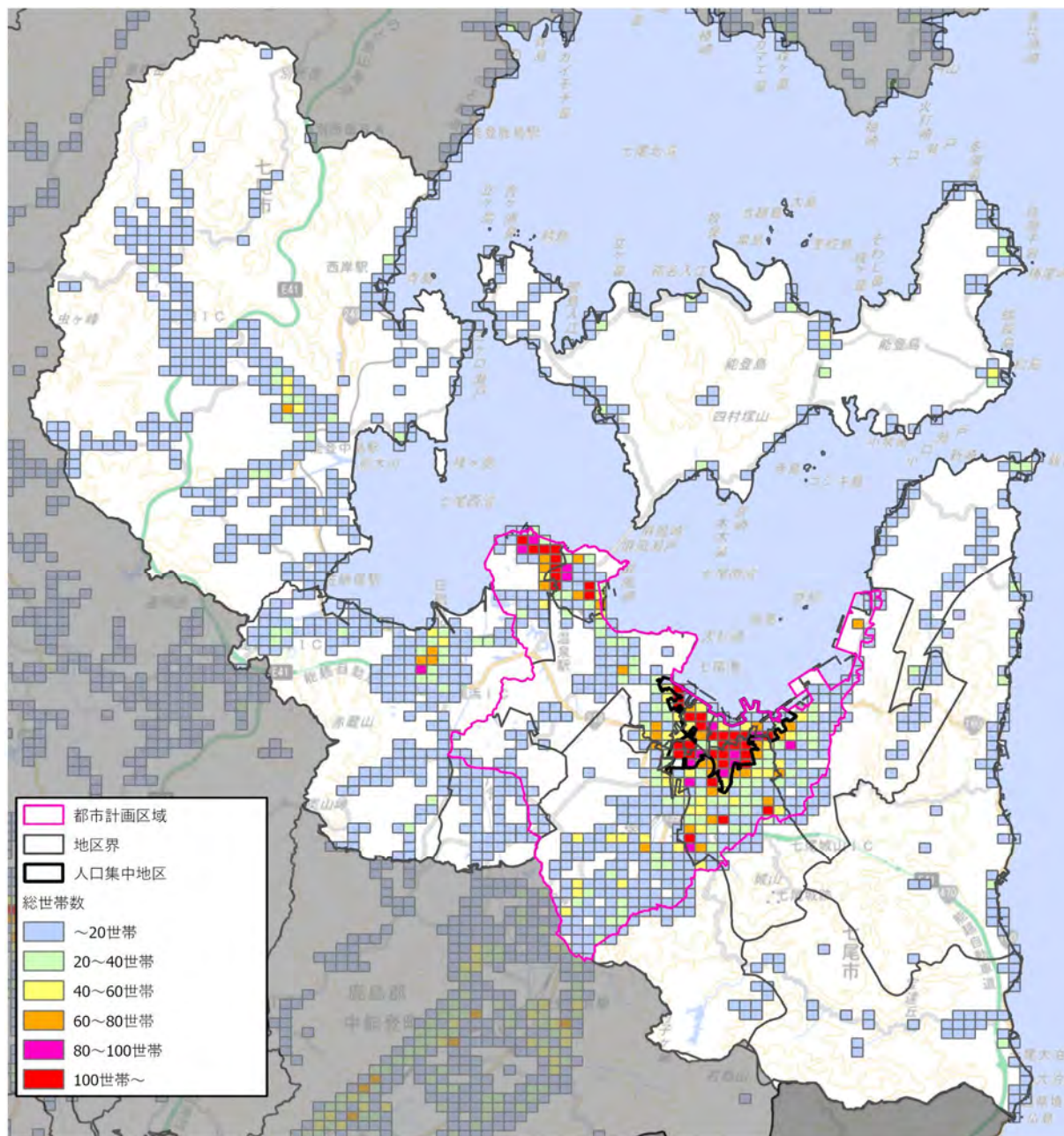


出典) 都市計画基礎調査（H7～H27）、国勢調査（R2）

図 1-13 世帯数推移（人口集中地区）

1-2-3.世帯分布

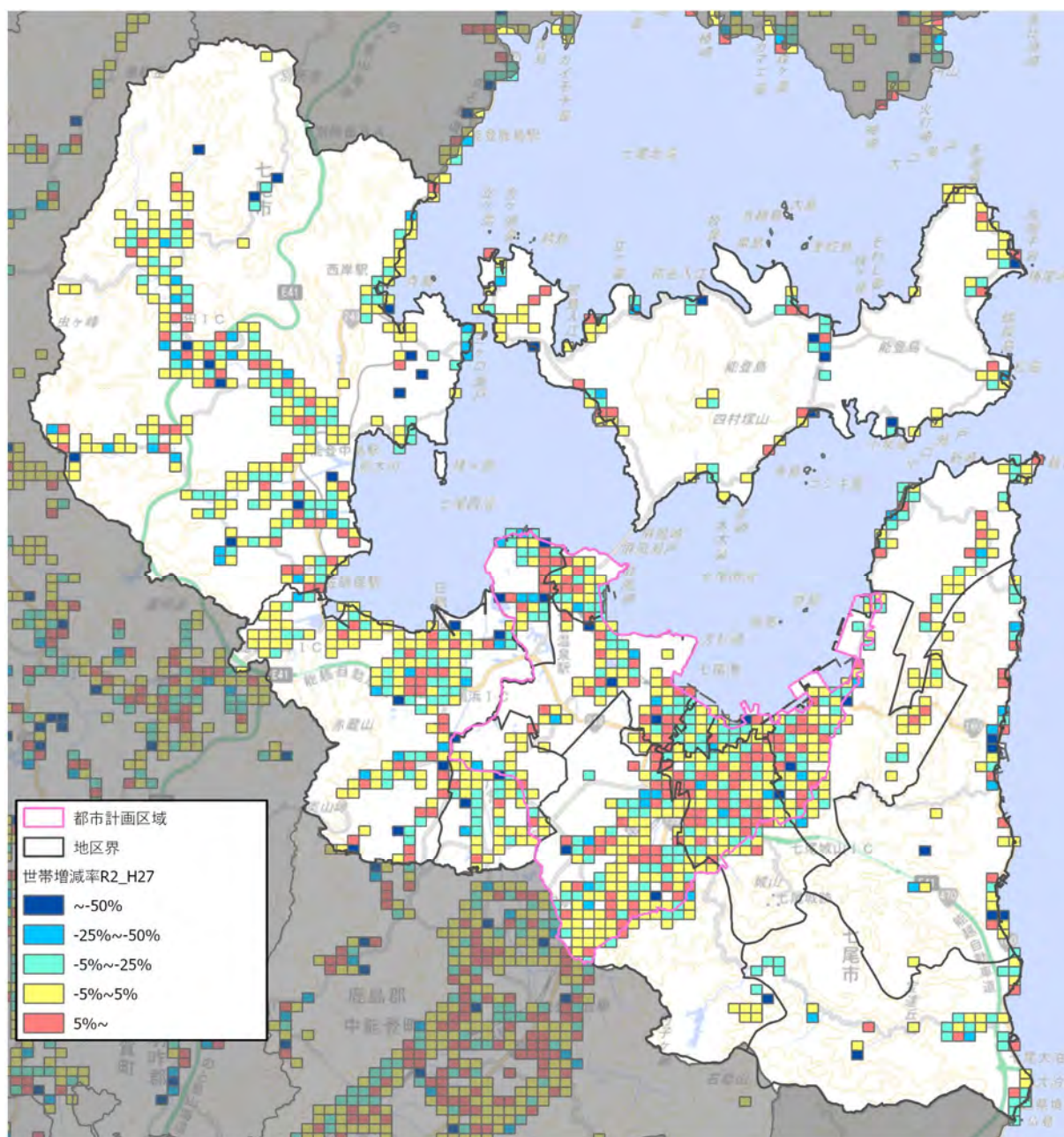
本市における世帯分布は、人口分布と同様に、都市計画区域内の七尾駅・七尾港周辺や和倉温泉街周辺で集積が見られる。また、都市計画区域外においても田鶴浜駅周辺や中島地区で一定の集積が見られる。



出典) 国勢調査、国土数値情報

図1-14 世帯分布(2020年)

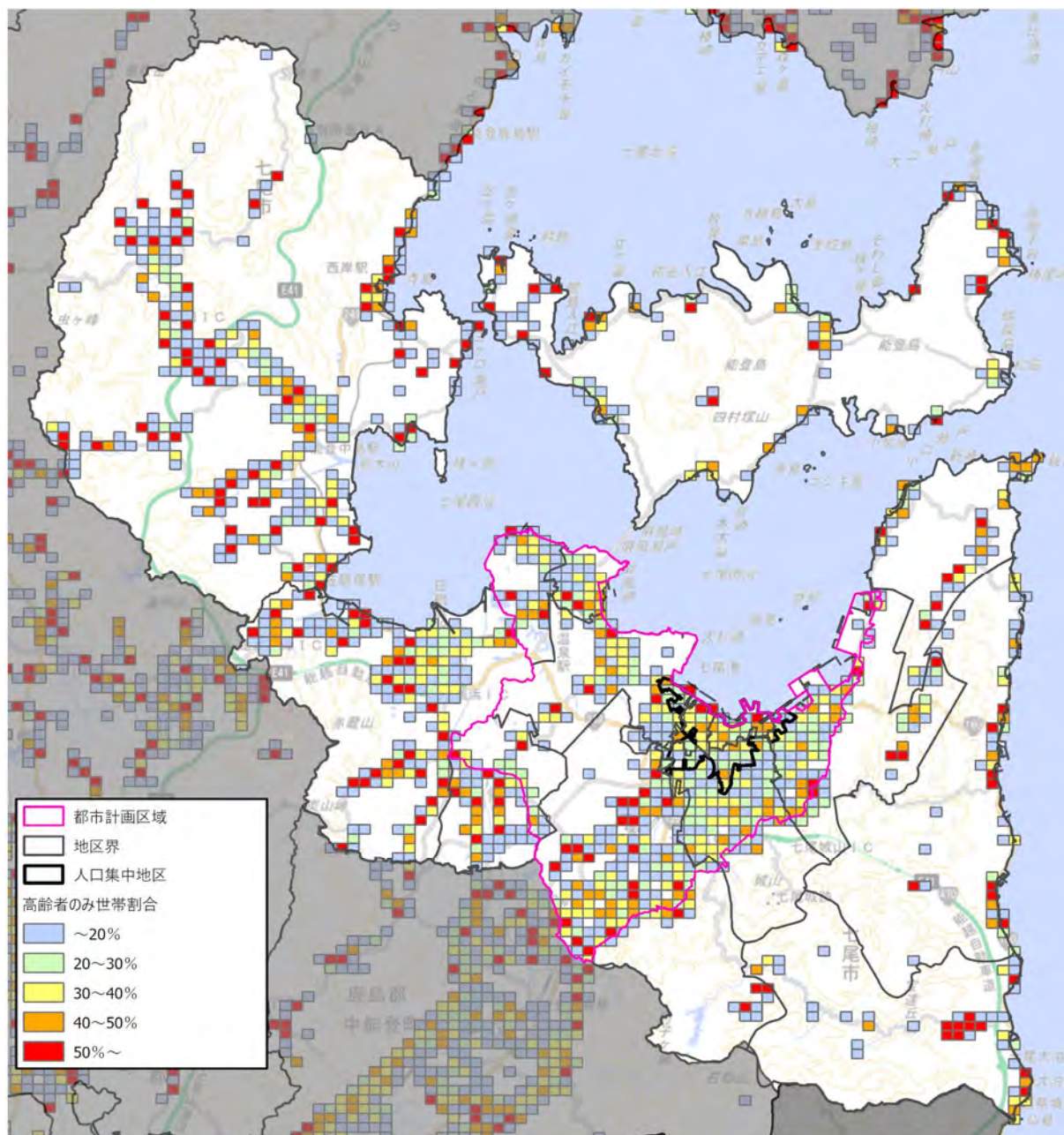
本市における世帯数は、世帯数が増加しているメッシュと減少しているメッシュが混在している。土地区画整理事業が実施されている万行地区周辺では世帯数が増加している傾向がみられる。



出典) 国勢調査、国土数値情報

図1-15 世帯数増減(2015年-2020年)

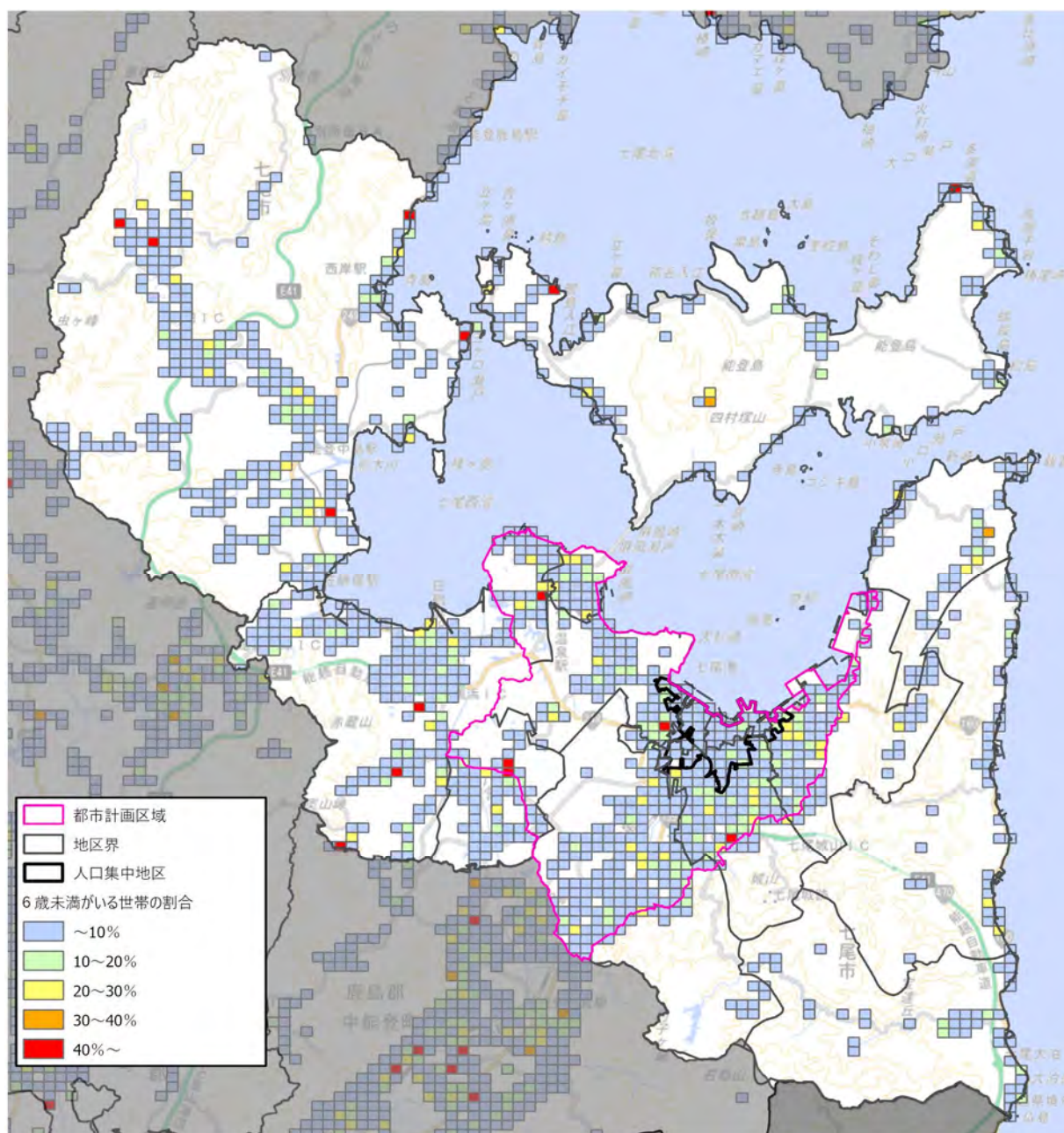
本市における高齢者のみ世帯は、高齢者のみ世帯が占める割合が50%を超える箇所は市全体に分布しているが、高齢化率と比較すると割合は低い傾向にある。



出典) 国勢調査、国土数値情報

図1-16 高齢者のみ世帯分布(2020年)

6歳未満世帯員のいる世帯が占める割合が高い箇所は、局所的にみられるものの、市全体では10%未満の地域が大半を占めている。



出典) 国勢調査、国土数値情報

図1-17 6歳未満世帯員のいる世帯分布(2020年)

1-3.産業

1-3-1.商業

年間商品販売額は平成6年の1,972億円をピークとして減少傾向にあり、令和3年では1,072億円と、平成6年から900億円（約45.6%）減少している。



出典) 商業統計調査 (H6～H19、H26)、経済センサス活動調査 (H24、H28、R3)

図1-18 年間商品販売額の推移

1-3-2.観光

和倉温泉宿泊者数及び日帰り客数は緩やかな減少傾向にあったが、令和2年に大きく減少しており、令和5年では平成28年と比較して、約27万人（30%）減少している。

国民宿舎能登小牧台宿泊者数及び日帰り客数は平成28年から平成30年にかけては減少傾向が見られたが、令和元年に一時的に増加し28,731人となったものの、令和2年以降は再び減少し、令和5年では平成28年と比較して、約1.5万人（59%）減少している。

能登島地区宿泊施設宿泊者数及び日帰り客数は緩やかな減少傾向であったが、令和2年に大きく減少しており、令和5年では平成28年と比較して、約1.3万人（43%）減少している。

なかじま猿田彦温泉いやしの湯入り込み客数は平成28年から令和元年にかけて増加傾向にあったが、令和2年に大きく減少しており、令和5年では平成28年と比較して、約1.1万人（19%）減少している。

ひょっこり温泉島の湯入り込み客数は平成28年から平成30年にかけては減少傾向が見られたが、令和元年に一時的に増加し111,188人となったものの、令和2年以降は再び減少し、令和5年では平成28年と比較して、約3.2万人（27%）減少している。

和倉温泉お祭り会館入り込み客数は令和2年から令和3年にかけて大きく減少しているが、令和3年以降は増加傾向にあるものの、令和5年では令和2年と比較して約1,400人（9%）減少している。



出典) 七尾市統計書

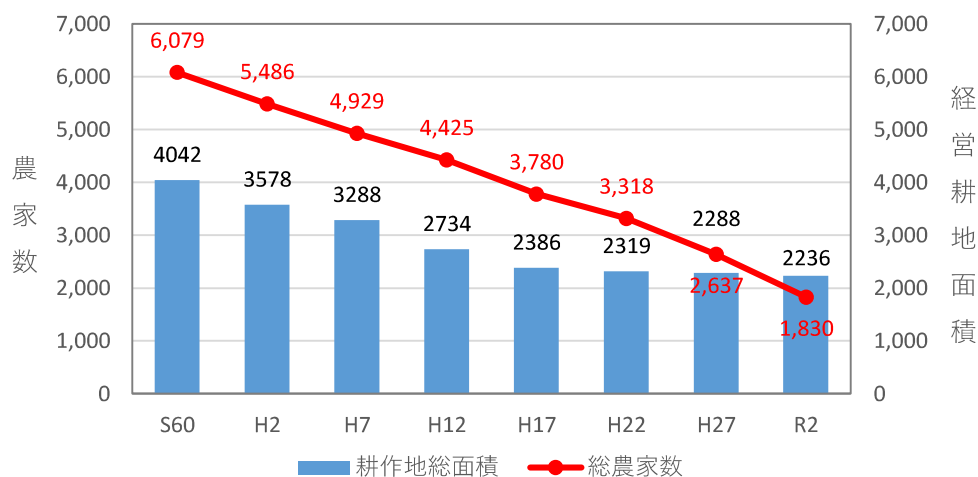
図1-19 観光入込客数の推移都市機能

1-3-3 農林漁業

(1) 農家数及び経営耕地面積の推移

本市の農家数は昭和 60 年より一貫して減少傾向にあり、令和 2 年では昭和 60 年と比較して、約 4,200 人（70%）減少している。

また、経営耕地面積も減少が続いており、令和 2 年では昭和 60 年と比較して約 1,800ha（45%）減少している。



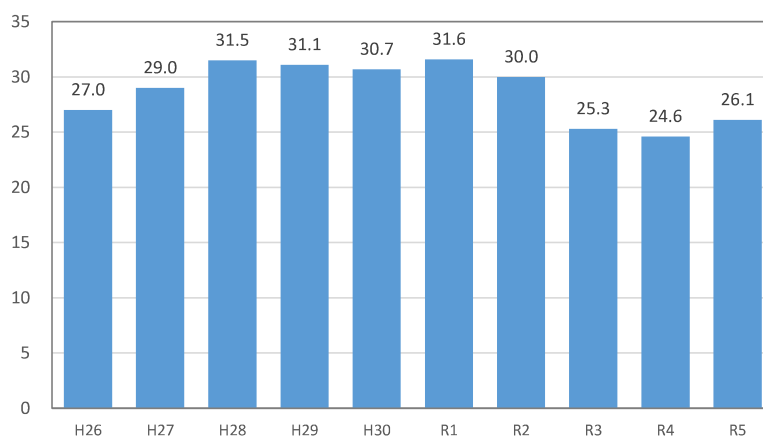
注）耕作地総面積は平成 17 年以前は総農家の面積、平成 17 年以降は農業経営体の面積を用いている。

出典）農林業センサス

図 1-20 農家数及び経営耕地面積の推移

(2) 農業産出額（推計）

本市の農業産出額（推計）は平成 28 年から令和 2 年にかけて増加傾向にあったが、令和 3 年に大きく減少しており、令和 5 年ではピークの令和元年と比較して、約 5.5 億円（17%）減少している。



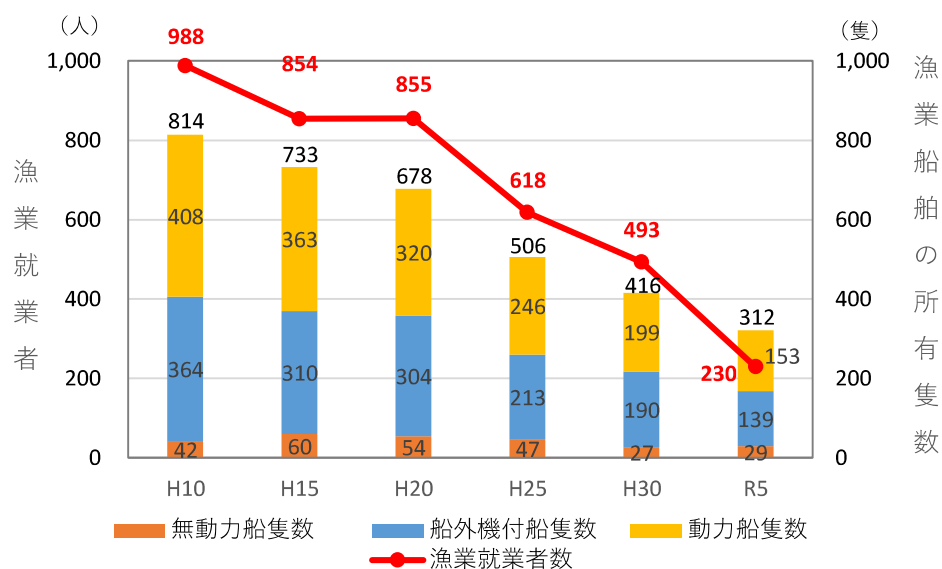
出典）市町村別農業産出額（推計）

図 1-21 農業産出額の推移

(3) 漁業就業者、漁業船舶の所有隻数

本市の漁業就業者数は平成10年より一貫して減少傾向にあり、令和5年では平成10年と比較して約760人（77%）減少している。

また、漁業船舶の所有隻数も同様の傾向にあり、令和5年では平成10年と比較して500隻（61%）減少している。



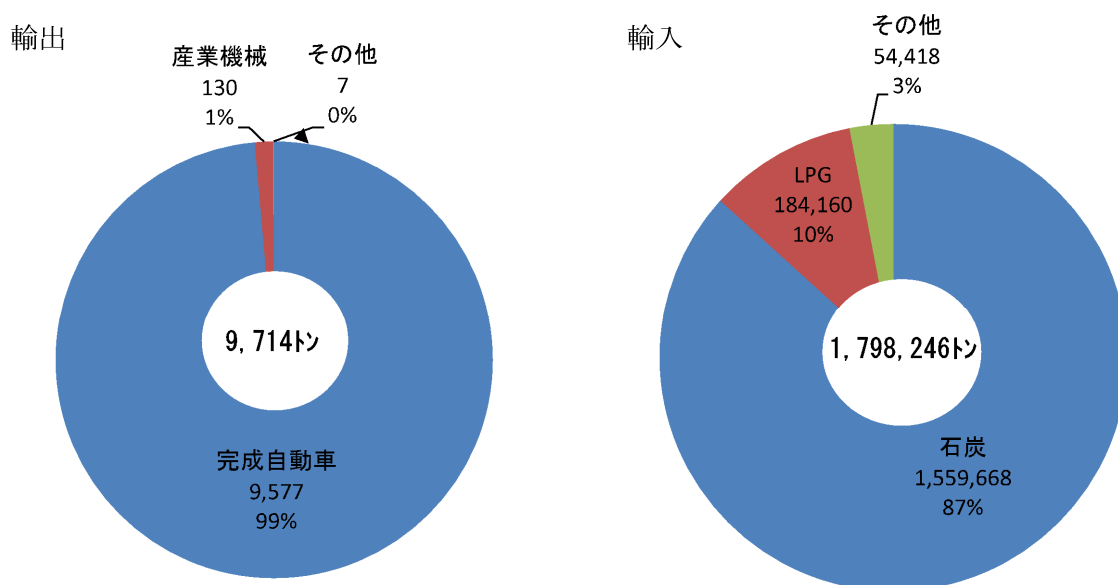
出典) 七尾市統計書

図1-22 漁業船舶の所有隻数、漁業就業者の推移

1-3-4 港湾

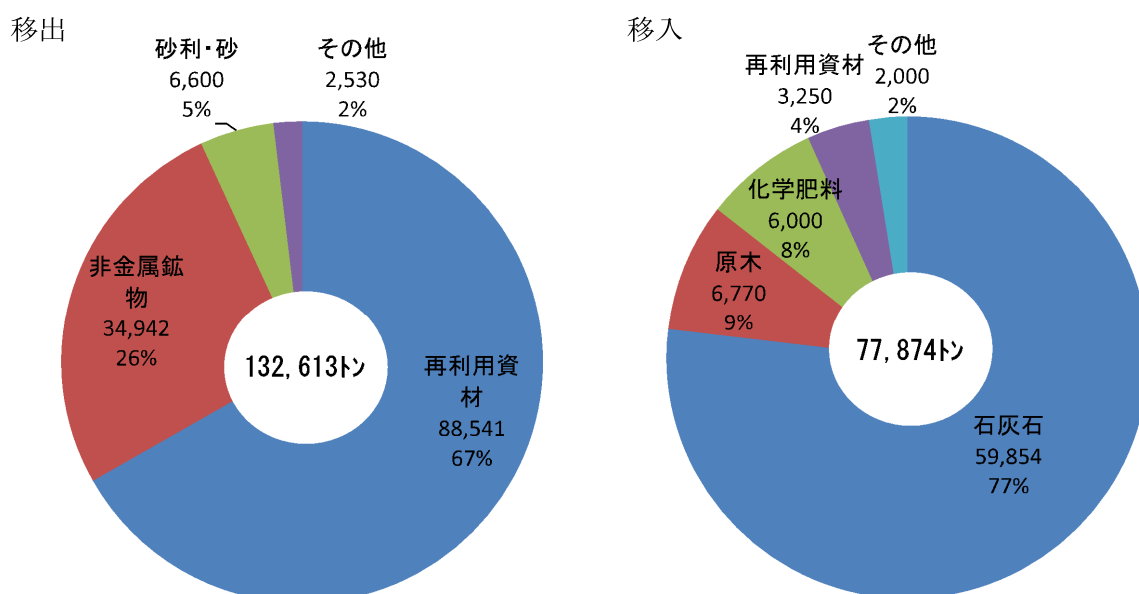
重要港湾に指定されている七尾港は、エネルギー基地、木材流通加工基地として施設整備が進められてきた。七尾大田火力発電所（平成7年に1号機、平成10年に2号機が稼働）、LPG 国家備蓄七尾基地（平成17年完成）が整備されている。

さらに、七尾港には七尾フィッシャーマンズワーフ「能登食祭市場」や七尾マリンパークが整備されるとともに、耐震強化(旅客船)岸壁が整備されたことによる旅客線誘致により交流人口の拡大が図られてきた。



出典) 令和6年度七尾港統計年報

図1-23 輸出・輸入貨物の品種別構成



出典) 令和6年度七尾港統計年報

図1-24 移出・移入貨物の品種別構成

1-4.市街地形成の経緯

昭和14年に七尾町に東湊、矢田郷、徳田、西湊、石崎の1町5カ村と和倉、奥原の2字を加えて七尾市が誕生し、その後、昭和29年には北大呑、南大呑、崎山、高階の各村、平成16年には田鶴浜、中島町、能登島町の3町と合併し、現在の七尾市が形成している。

七尾市では、合併経緯等を踏まえた市内15地区にコミュニティセンターを配置し、各地区の地域運営組織である「地域づくり協議会」が、指定管理者としてコミュニティセンターを管理・運営しており、地域まちづくりの拠点となっている。



出典) 図説「七尾市の歴史」

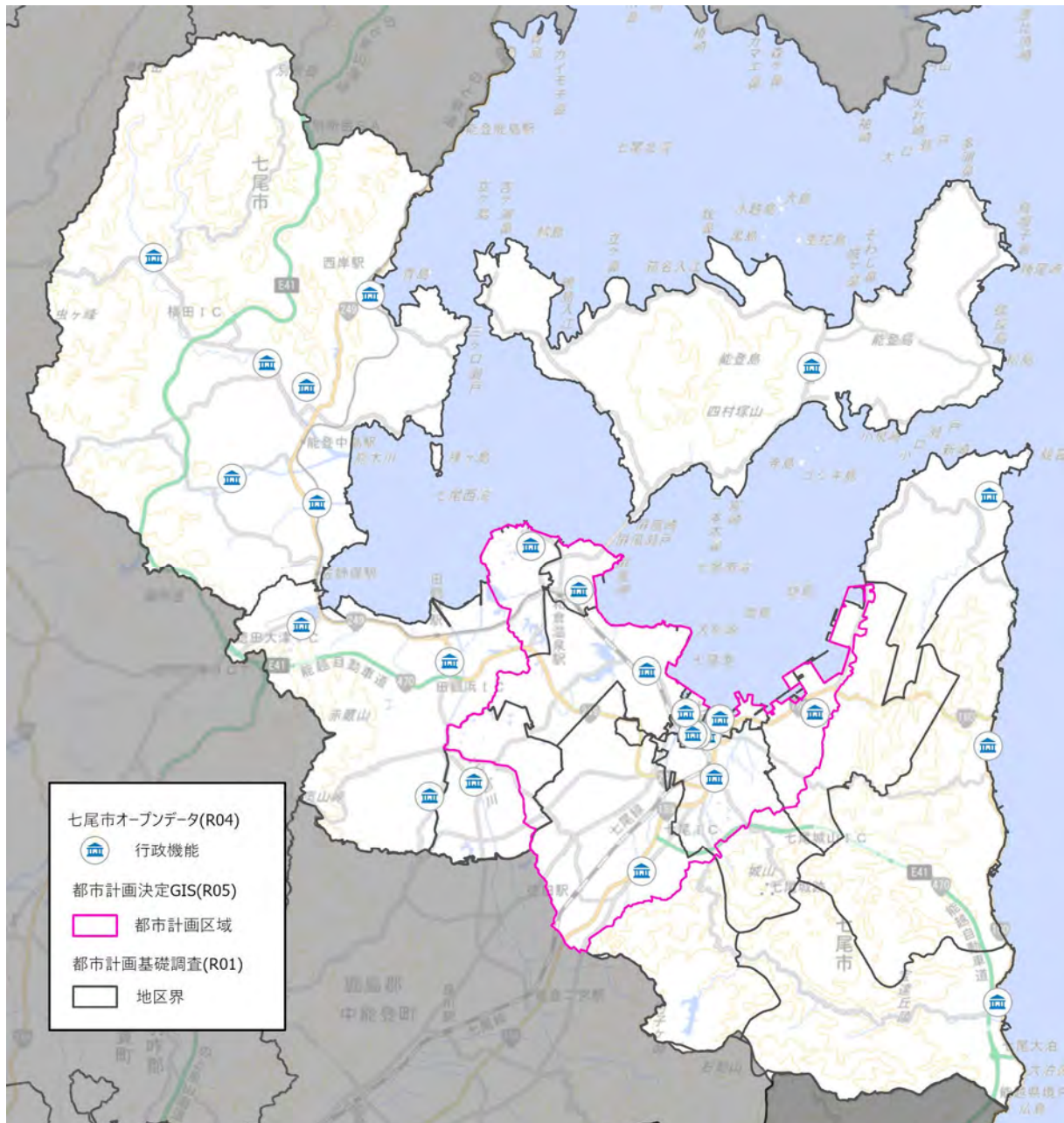
図1-25 市町村合併の経緯

1-5.都市機能

1-5-1.行政機能

本市には 26 箇所の行政機能（市役所 1 か所、行政窓口 25 か所）が立地している。

本市の中心部に七尾市役所のほか行政窓口が多く分布している。また、行政窓口は能登島を含めて市全域に分布している。



出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2.3)

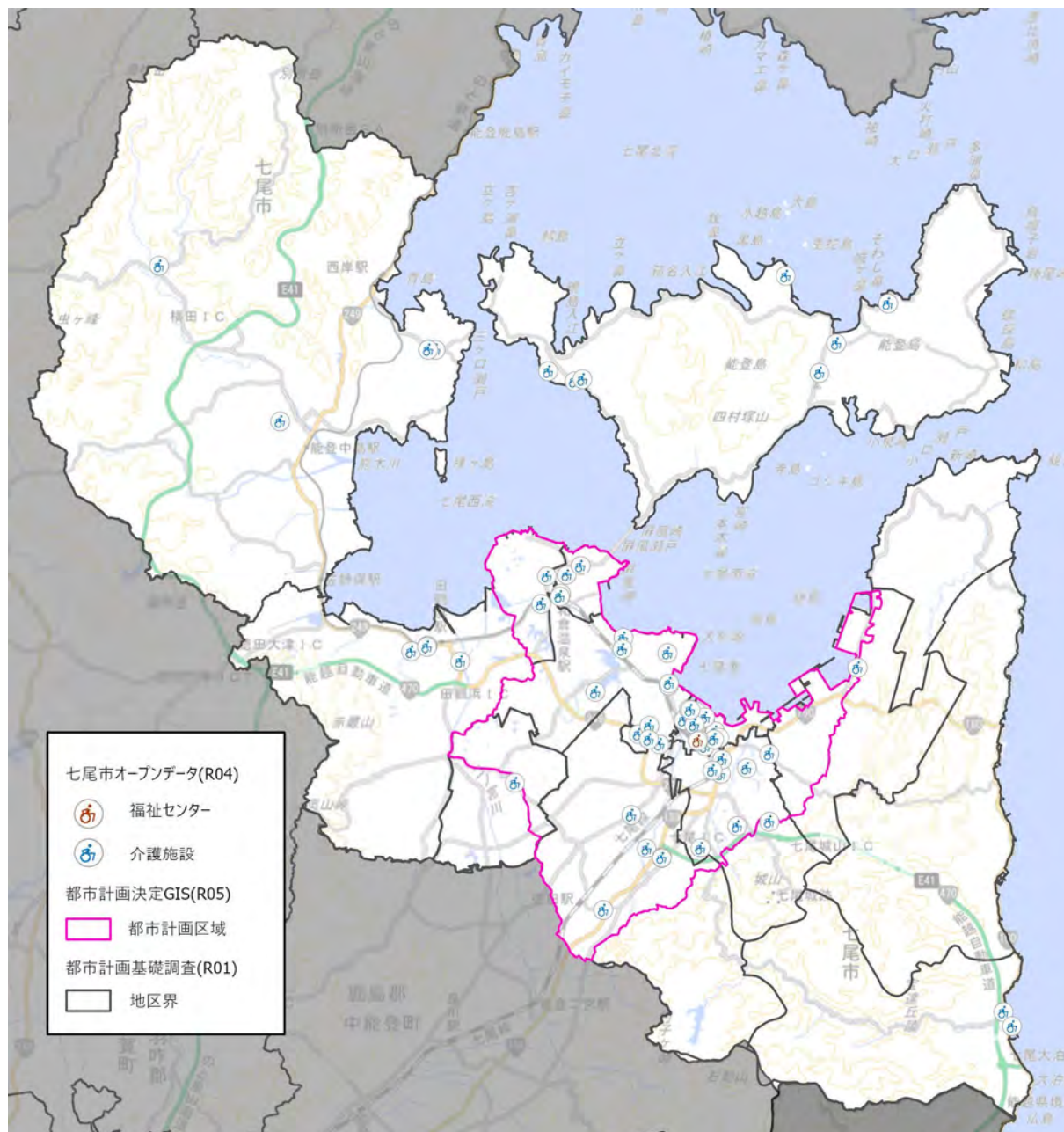
図 1-26 行政機能の分布

1-5-2介護福祉機能

本市には 107 箇所の介護福祉施設（福祉センター1 か所、介護施設 106 箇所）が立地している。

七尾都市計画区域内には福祉センターのほか多くの介護施設が多く分布している。

また、介護施設は能登島を含めて市全域に分布している。



出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2. 3)

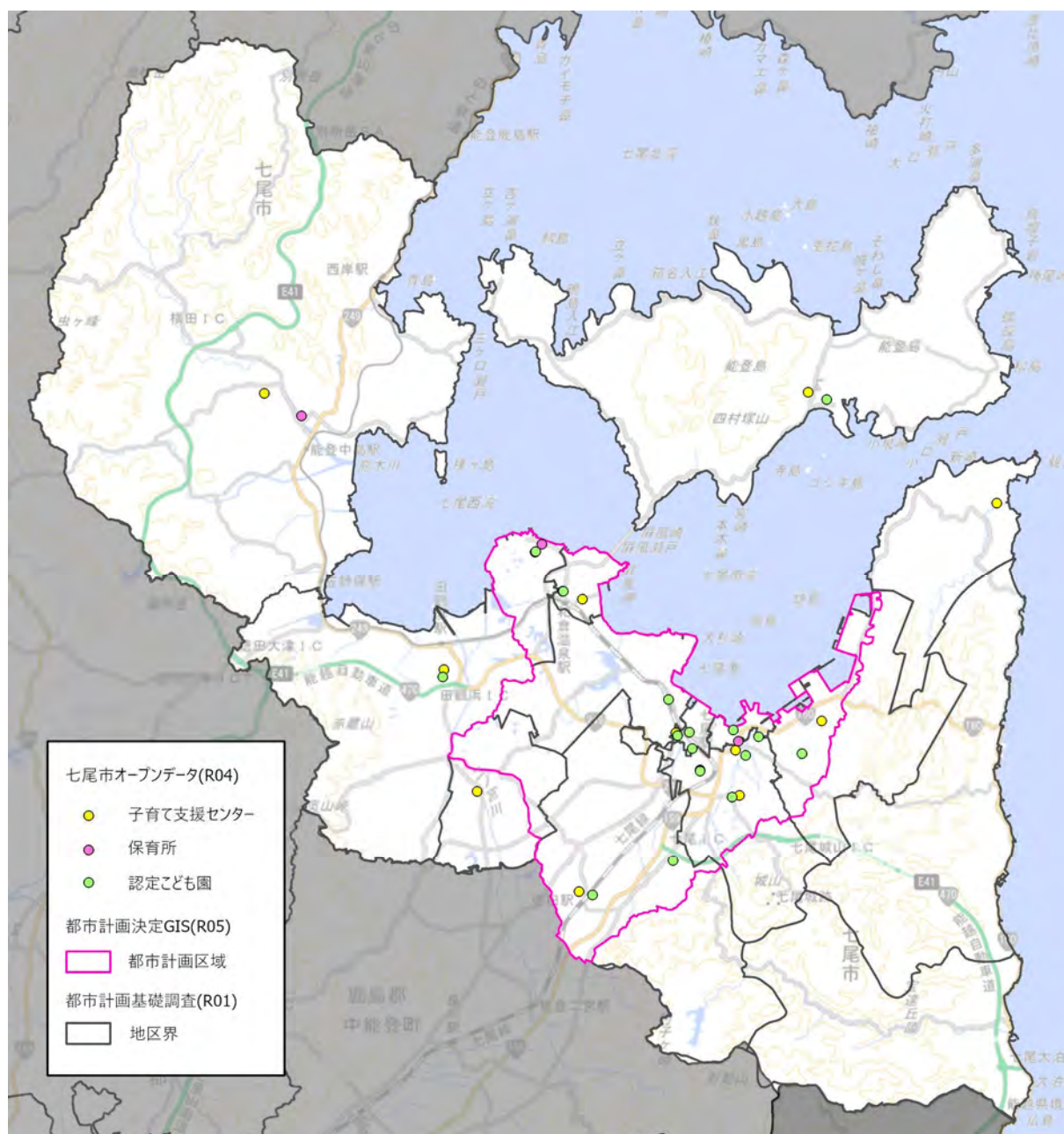
図 1-27 介護福祉機能の分布

1-5-3.子育て機能

本市には 38 箇所の子育て施設（子育て支援センター19 か所、保育所 3 か所、こども園 16 か所）が立地している。

七尾市都市計画区域内では保育所のほか多くの子育て施設が多く分布している。

また、子育て支援センターは能登島を含めて市全域に分布している。



出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2. 3)

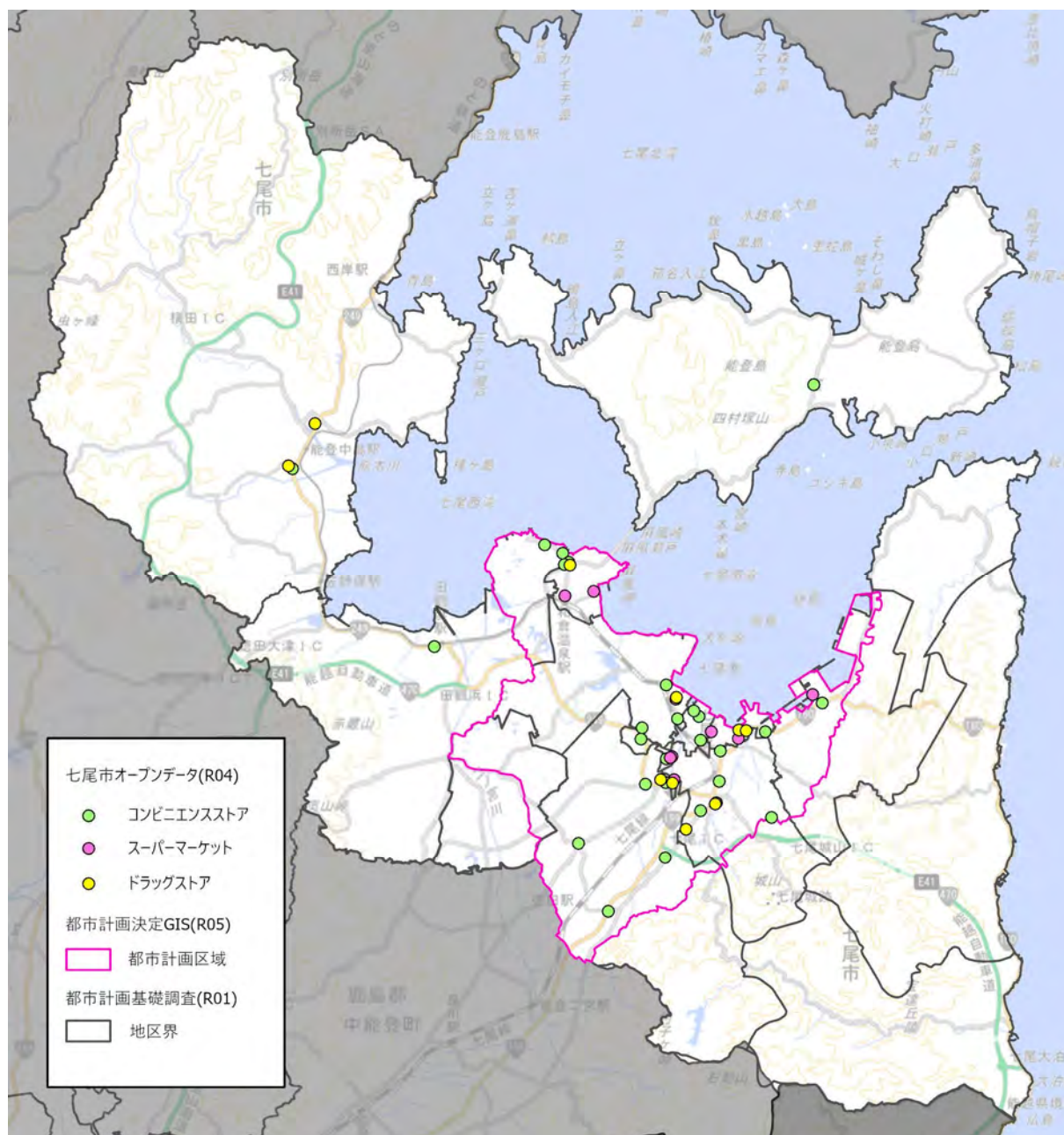
図1-28 子育て機能の分布

1-5-4 商業機能

本市には 46 箇所の商業施設（コンビニエンスストア 26 か所、スーパーマーケット 10 か所、ドラッグストア 10 か所）が立地している。

七尾市都市計画区域内にはコンビニ、スーパーマーケット、ドラッグストアが多く分布しているが、都市計画区域外においては国道 249 号などアクセスの良い場所や能登島の中心部にコンビニエンスストアやドラッグストアがわずかに点在しているのみでスーパーマーケットは存在しない。

また、東部や西部の山間地域では商業施設は存在しない。



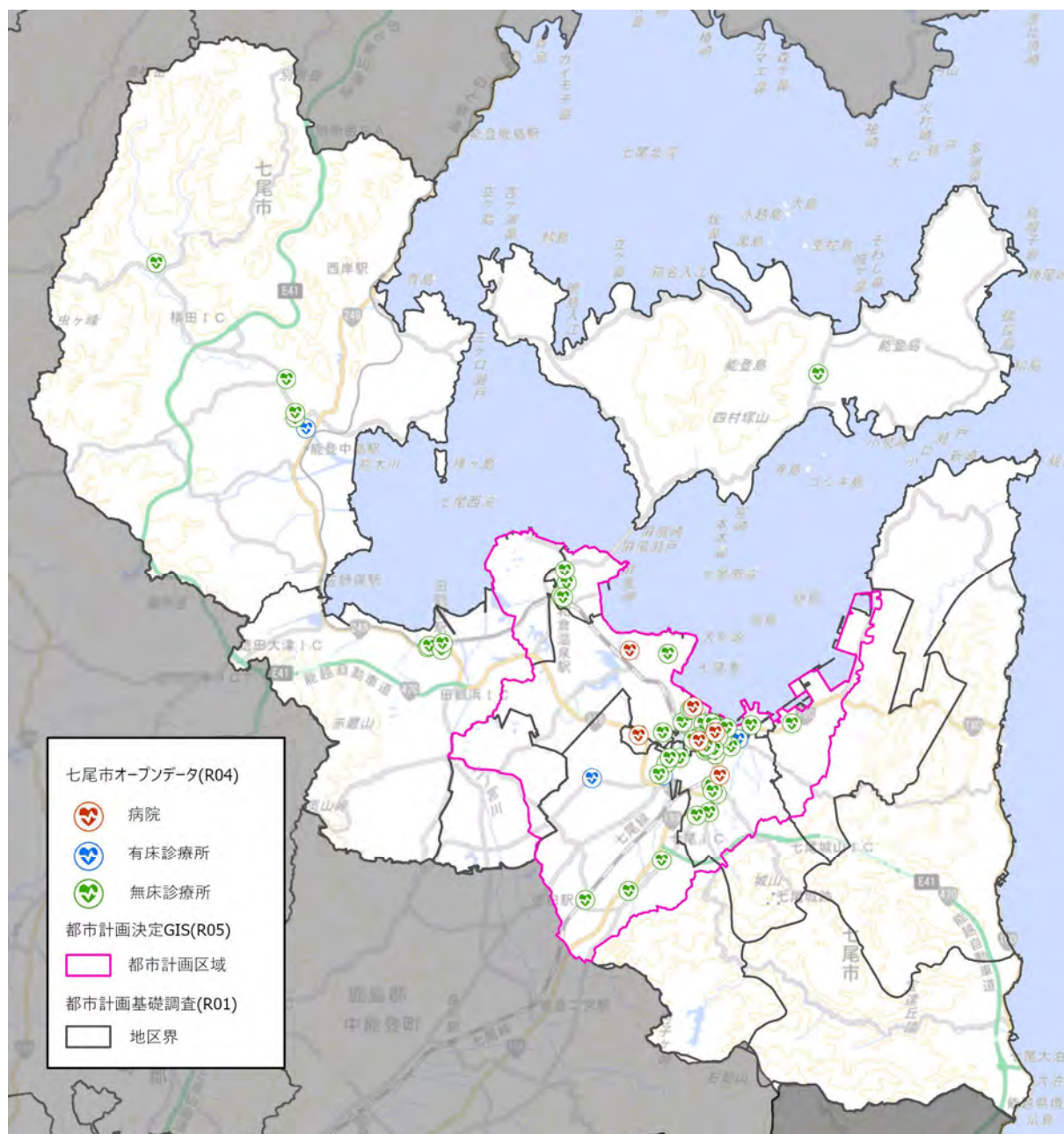
出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2. 3)

図 1-29 商業施設の分布

1-5-5医療機能

本市には63箇所の医療施設（病院6か所、有床診療所5か所、無床診療所52か所）が立地している。

七尾都市計画区域内には病院、有床診療所、無償診療所など医療施設が多く分布しているほか、北部の都市計画区域外や能登島は有床診療所、無床診療所など医療施設がわずかに点在しているのみで、東部の都市計画区域外では医療施設が存在しない。



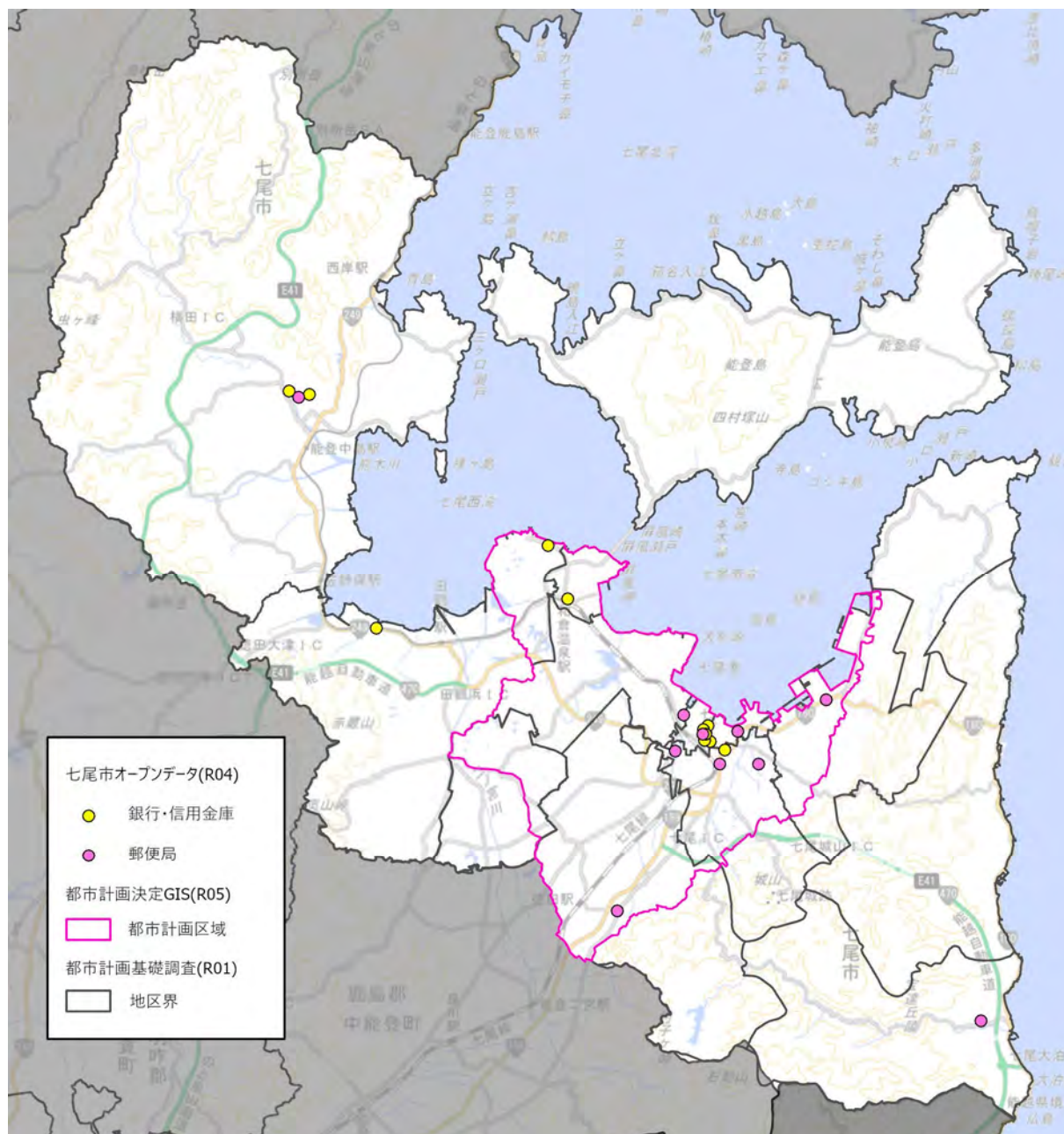
出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2. 3)

図1-30 医療機能の分布

1-5-6金融機能

本市には21箇所の金融機能（銀行・信用金庫11か所、郵便局10か所）が立地している。

七尾市都市計画区域内では金融機能が多く分布しているが、七尾市都市計画区域外では北東部の集落地にわずかに点在しているのみで、東部では金融機能はほとんど存在しないほか、能登島では金融機能は存在しない。



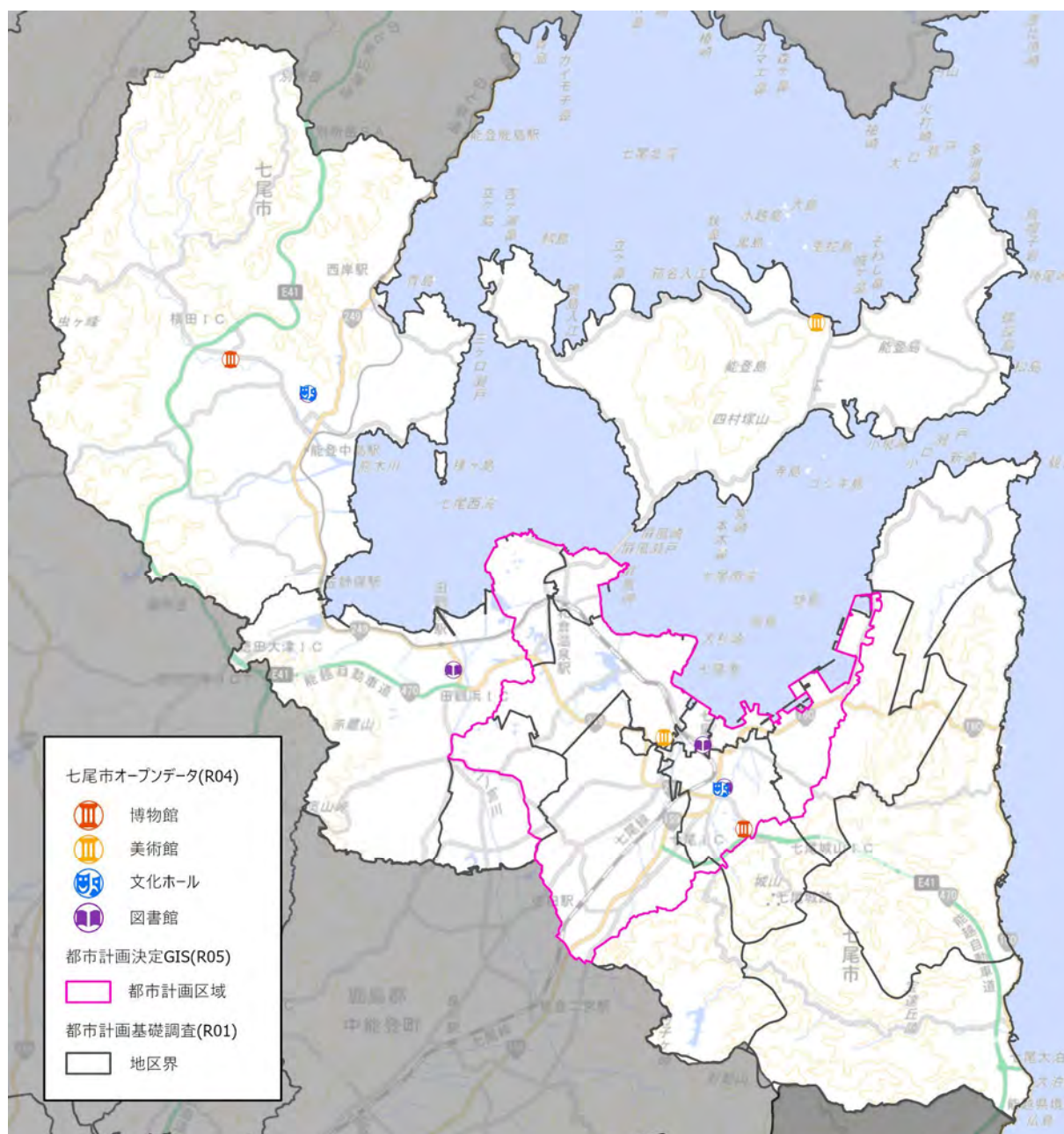
出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2. 3)

図1-31 金融機能の分布

1-5-7教育・文化機能

本市には10箇所の教育・文化機能（博物館2か所、美術館2か所、文化ホール2か所、図書館4か所）が立地している。

七尾市都市計画区域内に教育文化機能が多く分布するとともに、七尾市都市計画区域外においても東部の都市計画区域外や能登島において点在している。



出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2.3)、七尾市 HP

図1-32 教育・文化機能の分布

1-6.土地利用

1-6-1.自然環境

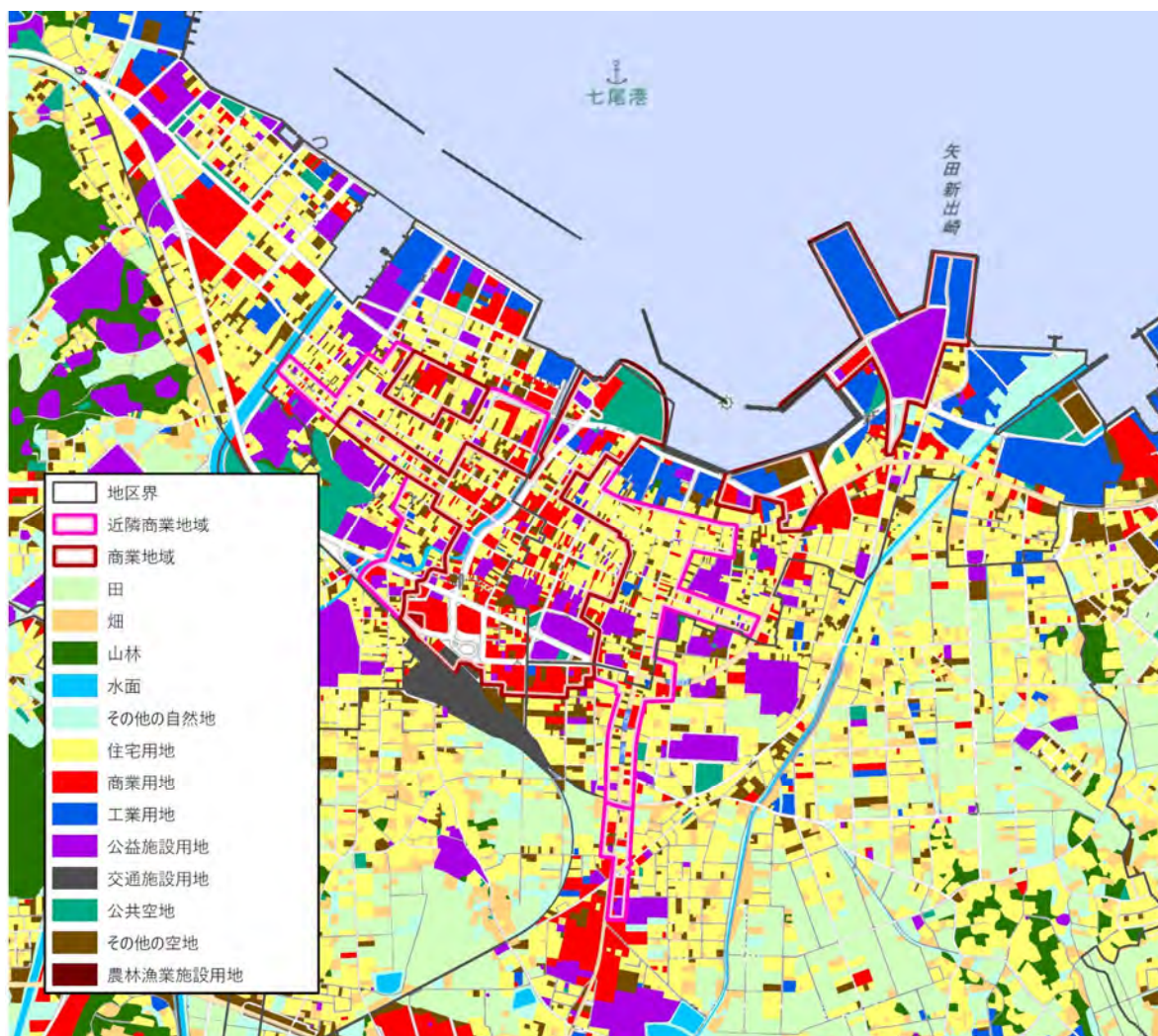
本市は、美しい海岸線を有する七尾湾や国定公園に指定されている能登島をはじめ、城山、赤蔵山、別所岳などの市街地を縁取る山々、趣のある農村集落などが分布し、豊かな自然環境を有している。

1-6-2土地利用現況

都市計画区域内は、七尾港周辺及び和倉温泉街周辺に用途地域が指定され、七尾港で工業・物流系の土地利用が進み、その内陸側の古くからの市街地や七尾駅周辺では商業・業務系の土地利用、それを取り囲むように住居系の土地利用が進んでいる。

和倉温泉街では、宿泊施設を中心とした商業系の土地利用が進み、その内陸側の和倉温泉駅周辺にかけて住居系の土地利用が進んでいる。

七尾駅周辺の中心市街地は、小丸山城の城下町として整備された歴史を有し、現在も文化財等が残る歴史的な市街地やその町並みが形成している。中心市街地に指定された商業地域における土地利用をみると住宅用地が目立ち、用途地域の指定意図に対して商業集積が進んでいない状況が伺える。

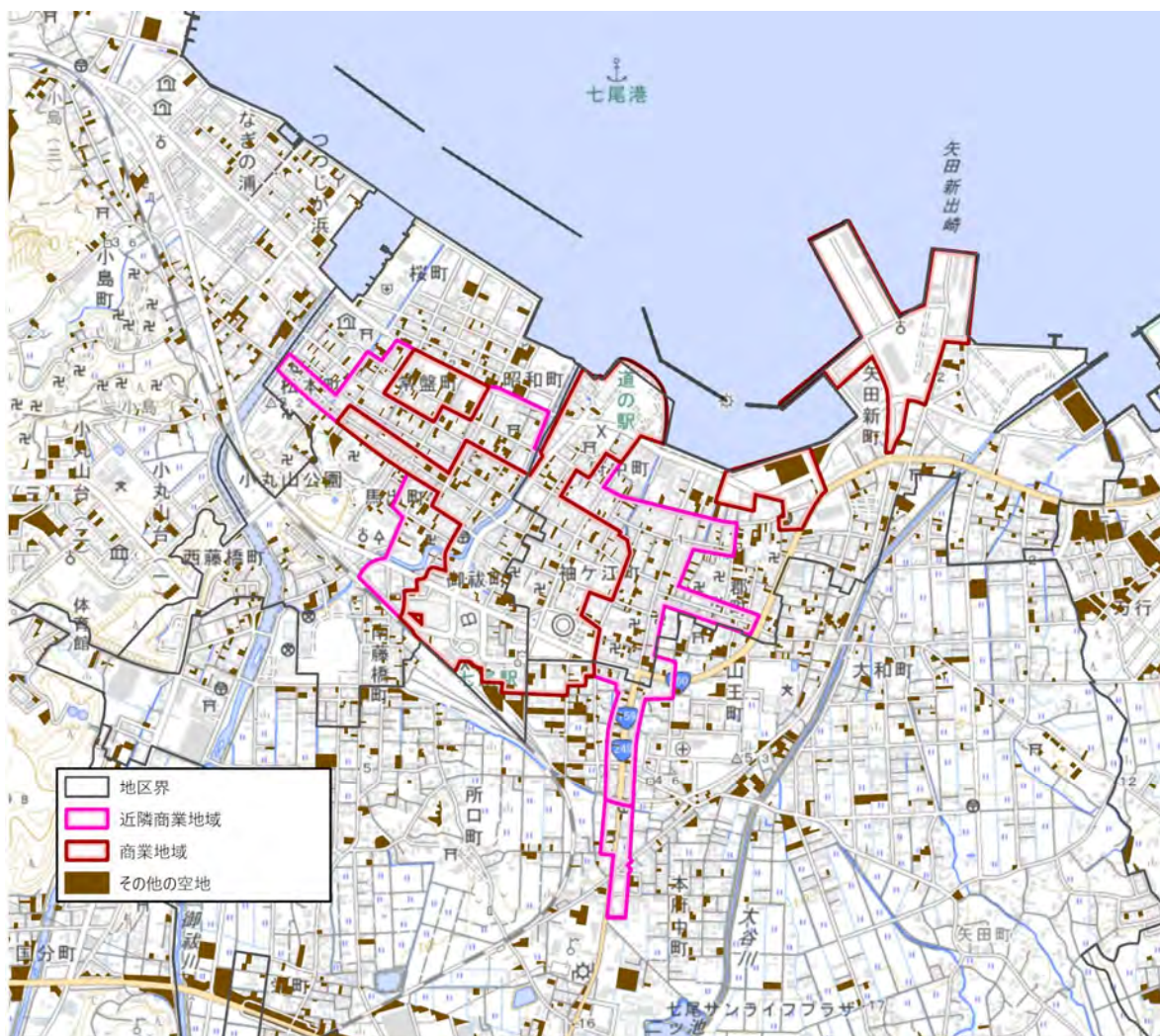


出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2.3)

図1-33 七尾駅周辺における土地利用現況図(商業系用途地域)

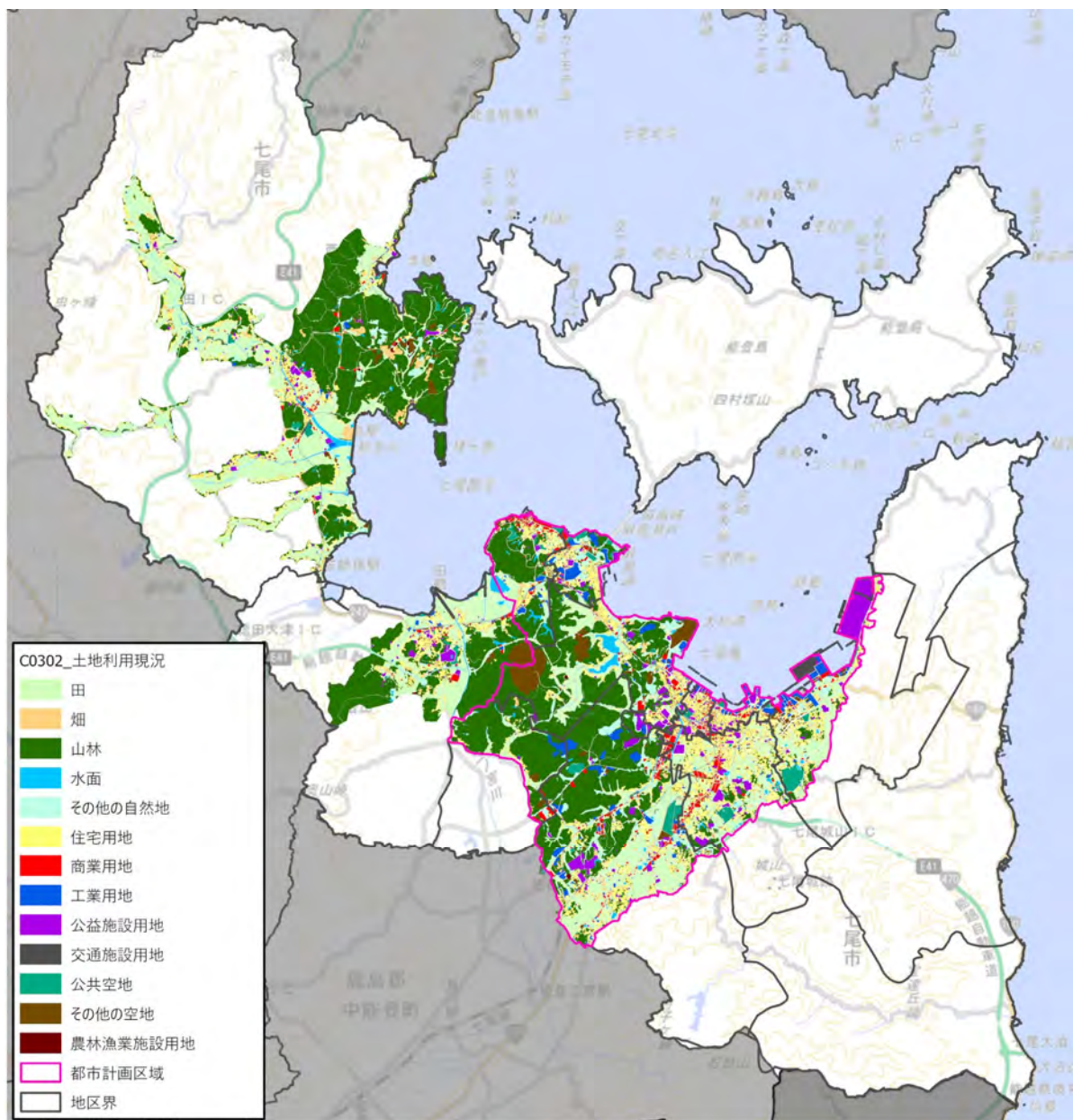
七尾駅周辺の商業地域、近隣商業地域が指定された地域において、空き地や平面駐車場等の小規模な低未利用地が分布している。

また、震災後は、公費解体等により、さらに低未利用地が増加することが想定される。



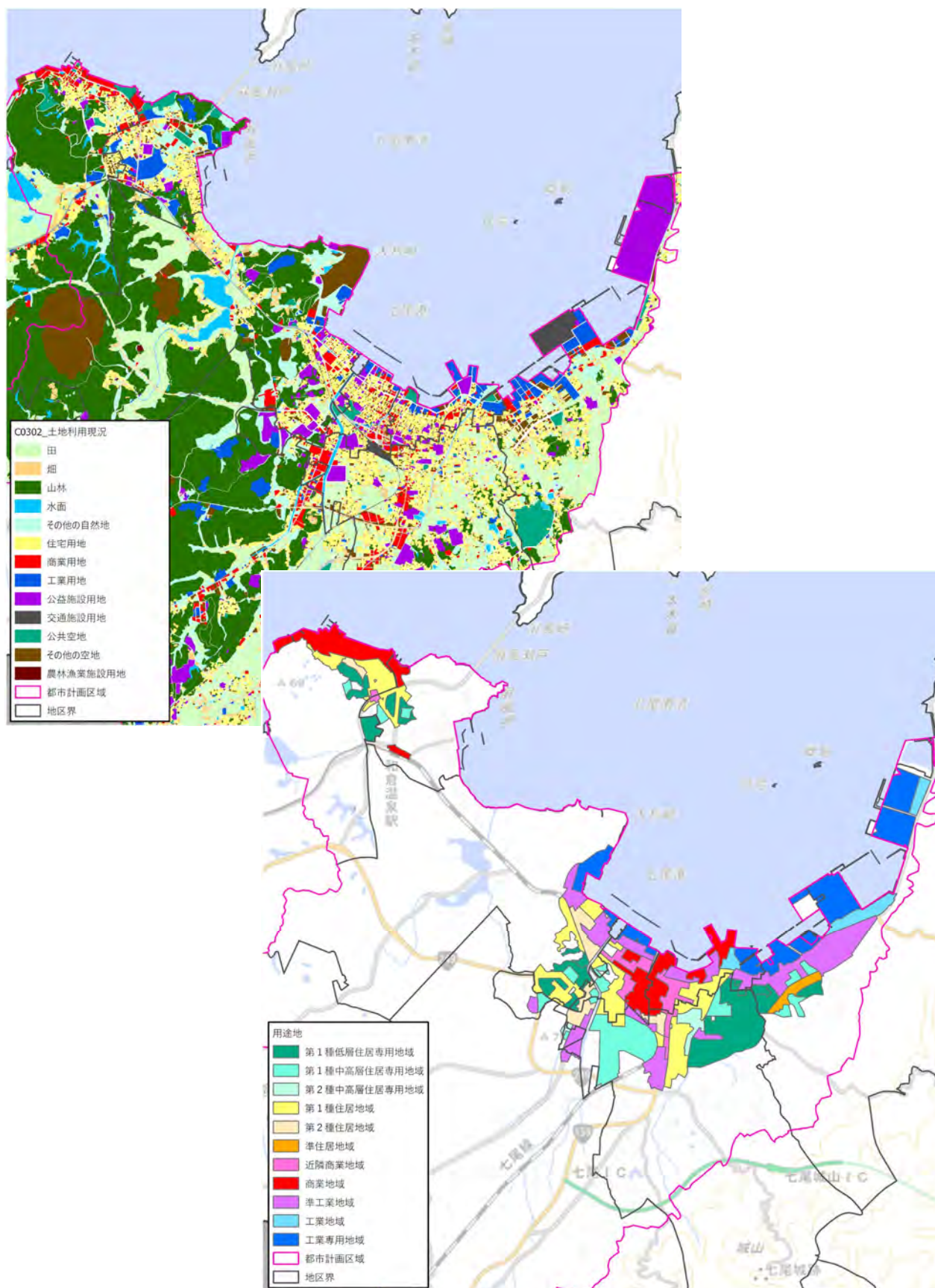
出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2. 3)

図1-34 七尾駅周辺における土地利用現況図(商業系用途地域)



出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2. 3)

図1-35 土地利用現況



出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2. 3) ・国土交通省都市計画決定 GIS

図1-36 土地利用現況及び用途地域(拡大)

1-7.建物

1-7-1建物用途

本市では、住居系建物棟数が 82.5%と大半を占め、次いで商業系（6.6%）、公共系（4.5%）となっている。また、建物面積では住居系建物棟数が 63.7%と半数以上を占め、次いで商業系（12.2%）、工業系（11.3%）となっており、大規模な工業系建物が立地している。

表 1-1 用途別建物現況

建物分類	建物用途	棟数	割合	棟数	割合	面積（㎡）	割合	面積（㎡）	割合
住宅系	住宅	27,604	74.6%	30,538	82.5%	2,248,716	55.6%	2,575,614	63.7%
	共同住宅	764	2.1%			111,994	2.8%		
	店舗併用住宅	1,812	4.9%			170,296	4.2%		
	店舗併用共同住宅	14	0.0%			2,699	0.1%		
	作業所併用共同住宅	344	0.9%			41,909	1.0%		
商業系	業務施設	1,100	3.0%	2,429	6.6%	170,479	4.2%	494,278	12.2%
	商業施設	1,165	3.1%			229,792	5.7%		
	宿泊施設	113	0.3%			74,443	1.8%		
	娯楽施設	51	0.1%			19,564	0.5%		
工業系	重工業施設	30	0.1%	1,335	3.6%	3,590	0.1%	367,669	9.1%
	家内工業施設	77	0.2%			5,900	0.1%		
	サービス工業施設	859	2.3%			206,847	5.1%		
	軽工業施設	369	1.0%			151,333	3.7%		
公共系	官公庁施設	146	0.4%	1,683	4.5%	35,223	0.9%	454,769	11.3%
	文教厚生施設（A）	213	0.6%			78,549	1.9%		
	文教厚生施設（B）	1,324	3.6%			340,998	8.4%		
その他	運輸倉庫施設	160	0.4%	1,009	2.7%	40,233	1.0%	149,325	3.7%
	農林漁業用施設	541	1.5%			49,867	1.2%		
	危険物貯蔵・処理施設	67	0.2%			6,859	0.2%		
	その他	241	0.7%			52,366	1.3%		
	計	36,994	100%	36,994	100%	4,041,656	100%	4,041,656	100%

出典）令和元年度都市計画基礎調査（R2.3）七尾市

1-7-2 建築年別建物分布状況

本市の用途地域内における建物は、旧耐震基準に基づき建築された昭和56年以前の建物が多く分布している。



出典) 令和元年度都市計画基礎調査 (R2.3) 七尾市

図1-37 建築年別建物現況

1-8.交通

1-8-1鉄道

J R七尾線は、七尾市内に徳田駅、七尾駅、和倉温泉駅の3駅が位置しており、のと鉄道七尾線は、七尾市内に七尾駅、和倉温泉駅、田鶴浜駅、笠師保駅、能登中島駅、西岸駅の6駅が位置する。



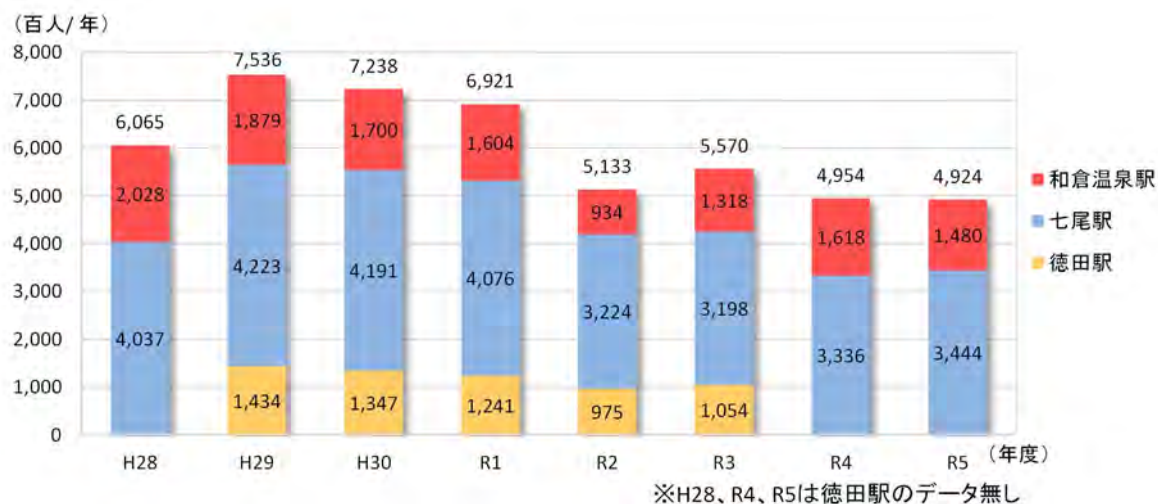
出典) 国土数値情報

図1-38 鉄道路線図

(2) JR 七尾線

七尾線の和倉温泉駅、七尾駅、徳田駅の利用者数は平成 29 年度から令和元年度は緩やかに減少しており、令和 2 年度に大きく減少し約 51. 万人、令和 3 年度にやや増加し約 55. 7 万人となっている。

令和 5 年度の駅別利用者数は、七尾駅が約 34. 4 万人、和倉温泉駅が約 14. 8 万人となっている。



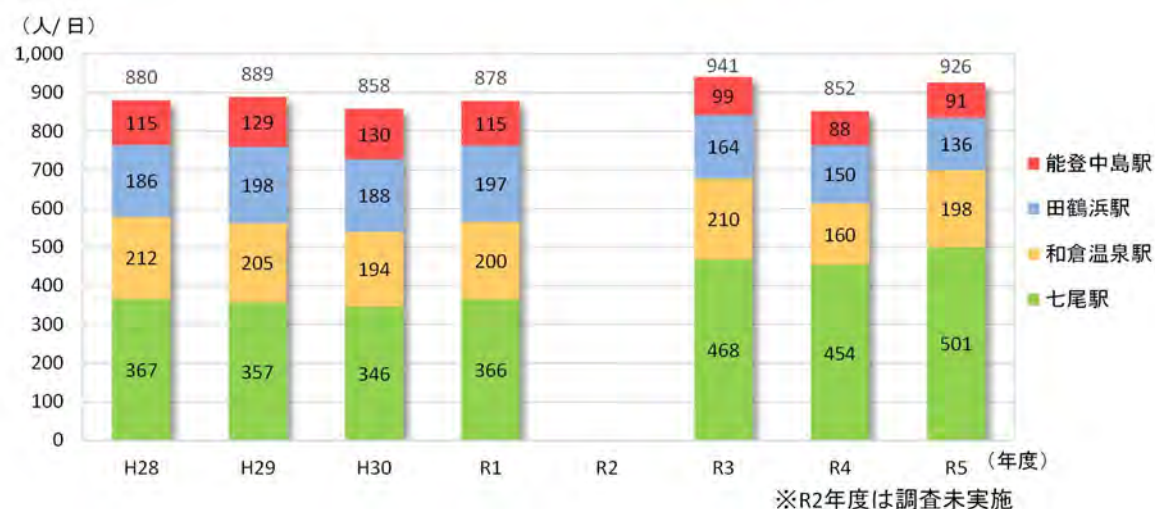
出典) 七尾市公共交通計画 (R5. 3)、七尾市統計書

図 1-39 鉄道乗車人員の推移 (JR七尾線)

(3) のと鉄道七尾線

のと鉄道七尾線 能登中島駅、田鶴浜駅、和倉温泉駅、七尾駅における 1 日平均利用者数は平成 28 年度から横ばいから微増傾向にあり、令和 5 年度は 926 人/日となっている。

令和 5 年度の駅別の 1 日平均利用者数は、七尾駅が 501 人/日、和倉温泉駅が 198 人/日、田鶴浜駅が 136 人/日、能登中島駅が 91 人/日となっている。



出典) 七尾市公共交通計画 (R5. 3)、七尾市統計書

図 1-40 鉄道乗車人員の推移 (のと鉄道七尾線)

1-8-2バス

北鉄能登バスは、三階線、満仁線、羽七東線、高浜線、和倉線、脇線、崎山循環線の7路線が七尾市内で運行している。

羽七東線は羽咋市⇄七尾市、高浜線は志賀町⇄七尾市、脇線は氷見市⇄七尾市を運行しており、他の三階線、満仁線、和倉線、崎山循環線は市内を運行している。

コミュニティバスは市内で5路線運行されており、七尾地域はまりん号、ぐるっとセブン、やまびこ号、田鶴浜地域は はなバス、中島地域はげんきバスが運行されている。



出典) 七尾市公共交通計画 (R5. 3)

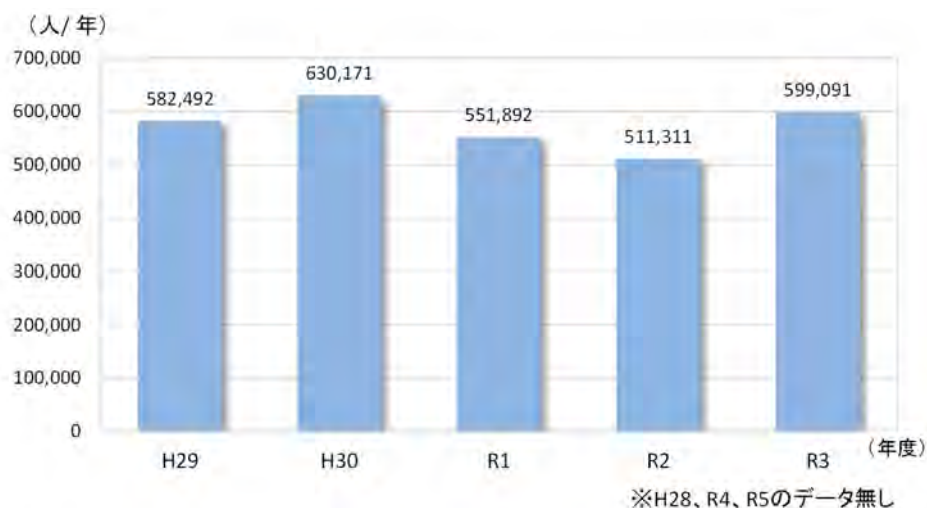
図1-41 バス路線図(路線バス、コミュニティバス)

(2) 路線バス

1) 北鉄能登バス

北鉄能登バスの利用者数は、平成 30 年度の 630,171 人をピークに緩やかに減少したが令和 3 年度に増加し、令和 3 年度は 599,091 人となっている。

令和 3 年度は平成 30 年度に比べ、4.9% (31,080 人) 減少している。



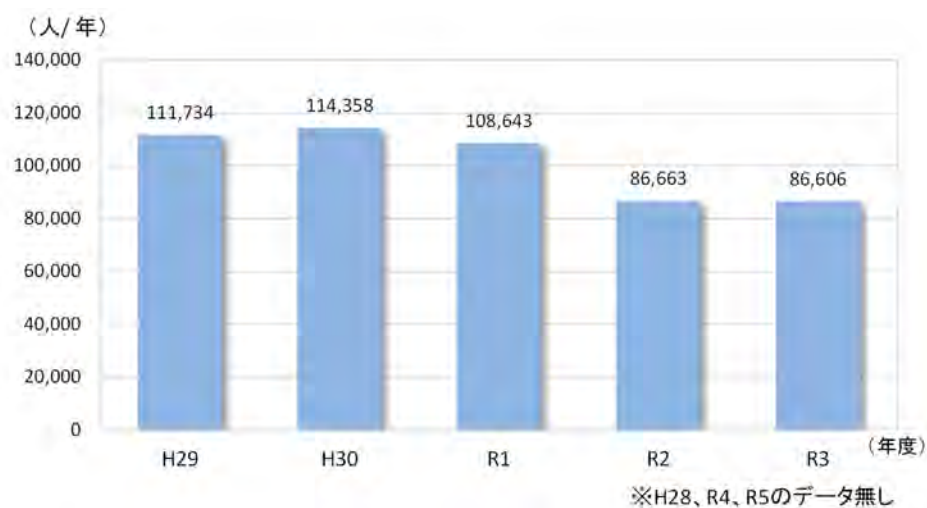
出典) 七尾市公共交通計画 (R5. 3)

図 1-42 バス乗降者数(路線バス)の推移

(3) コミュニティバス

コミュニティバスの利用者は、平成 30 年度の 114,358 人をピークに減少しており、令和 3 年度は 86,606 人となっている。

令和 3 年度は平成 30 年度に比べ、24.3% (27,752 人) 減少している。



出典) 七尾市公共交通計画 (R5. 3)

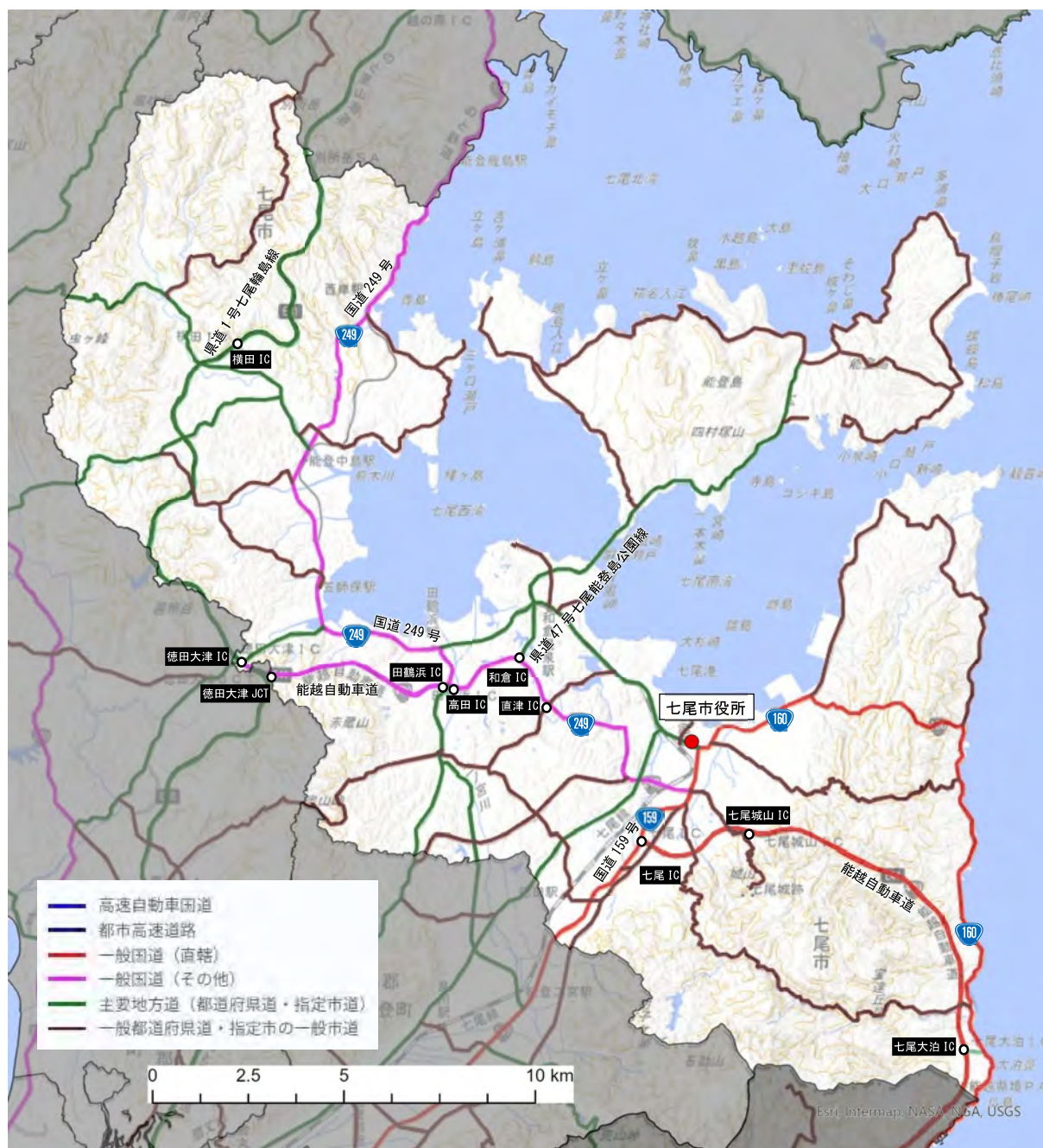
図 1-43 バス乗降者数(コミュニティバス)の推移

1-8-3.自動車交通動

令和3年度一般交通量調査結果（以下 R3 センサス）より、対象地域における道路交通状況について整理した。

（1）道路整備状況

七尾市には国道 249 号、159 号、能越自動車道、県道 1 号七尾輪島線、県道 47 号七尾能登島公園線等が整備されており、湾を囲むように広がる市街地同様、道路網も内湾沿いや山間部を通っている。



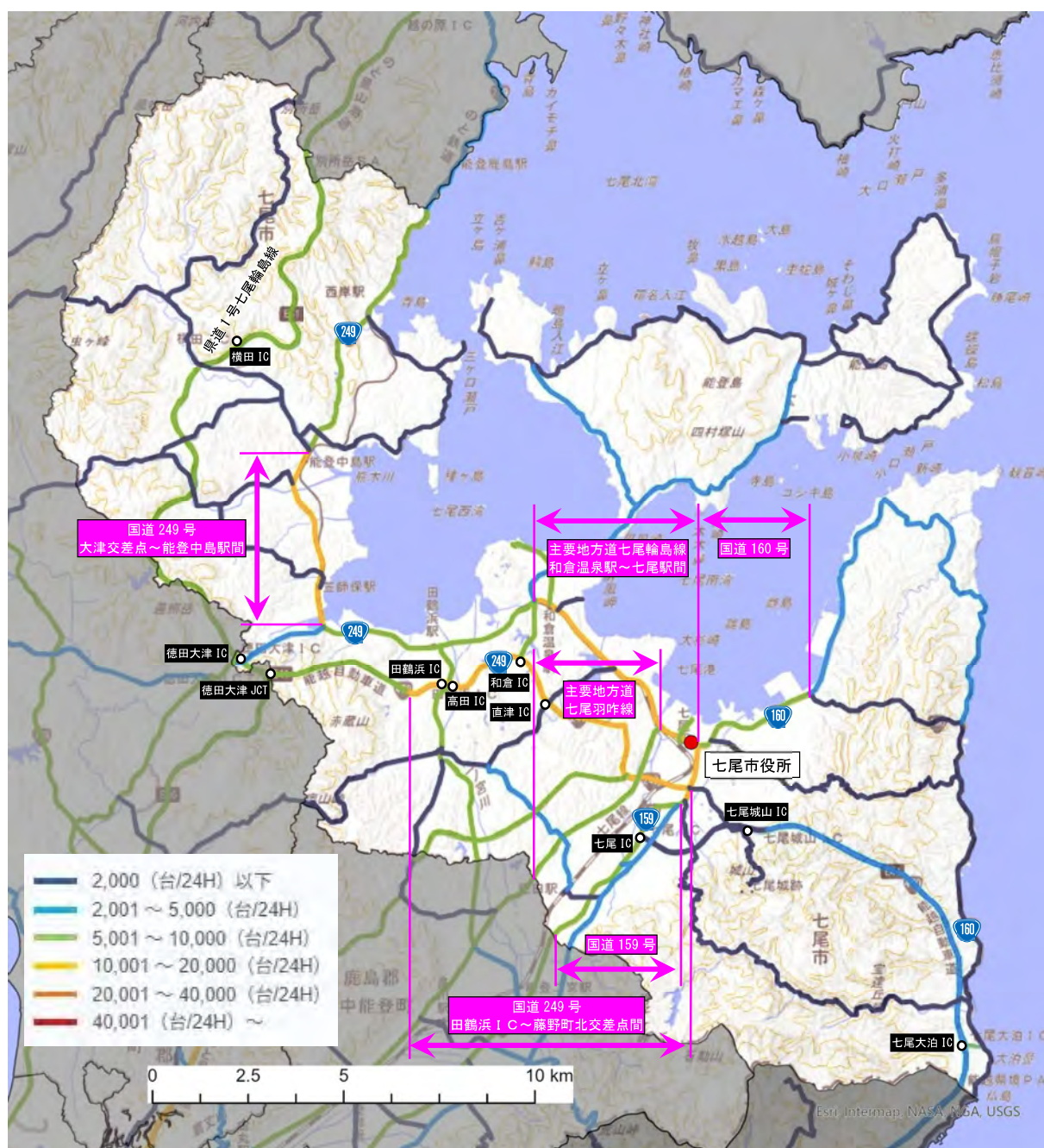
出典) 令和3年度 一般交通量調査結果 (国土交通省) から作図

図 1-44 道路網図

(2) 24 時間交通量

本市で交通量が多いのは主要地方道七尾輪島線の和倉温泉駅から七尾駅間や国道 249 号田鶴浜 I C から藤野町北交差点間、国道 249 号大津交差点から能登中島駅間であり、1～2 万台/24h 程度の交通が通過している。

その他、交通量が多いのは、国道 249 号大津交差点から和倉温泉駅間や七尾駅へ向かう主要地方道七尾羽咋線や国道 159 号、160 号等で 0.5～1 万台/24h 程度であり、それ以外の道路は 1 万台未満となっている。

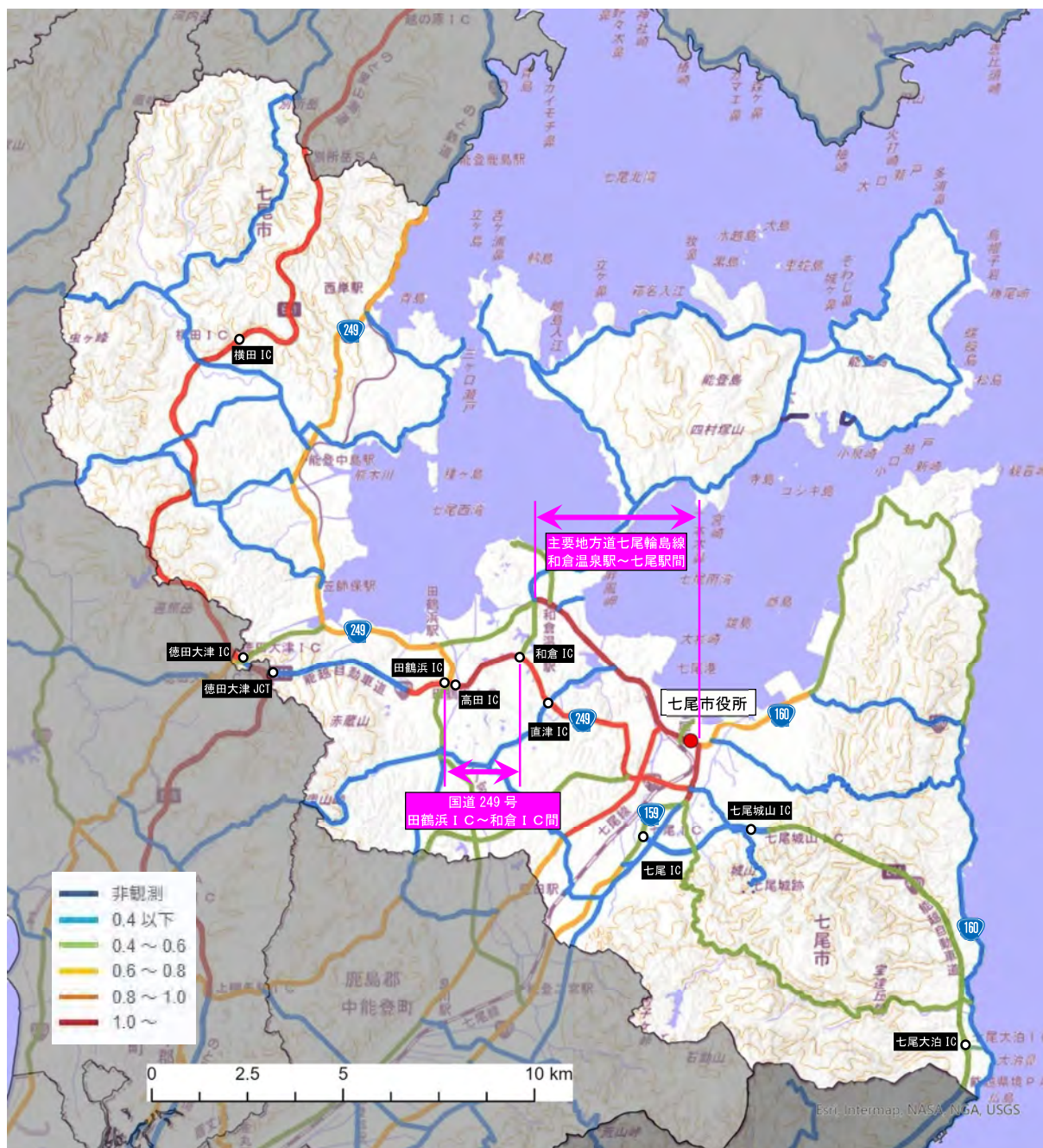


出典) 令和 3 年度 一般交通量調査結果 (国土交通省) から作図

図 1-45 24 時間交通量図

(3) 混雑度

混雑度の状況をみると、和倉温泉へ向かう道路は観光需要が高く、主要地方道七尾輪島線の和倉温泉駅から七尾駅間及び国道 249 号の田鶴浜 IC から和倉 IC 交差点間で 1.0 を超過する区間が存在しているが、上記以外は、1.0 を下回っている。



出典) 令和 3 年度 一般交通量調査結果 (国土交通省) から作図

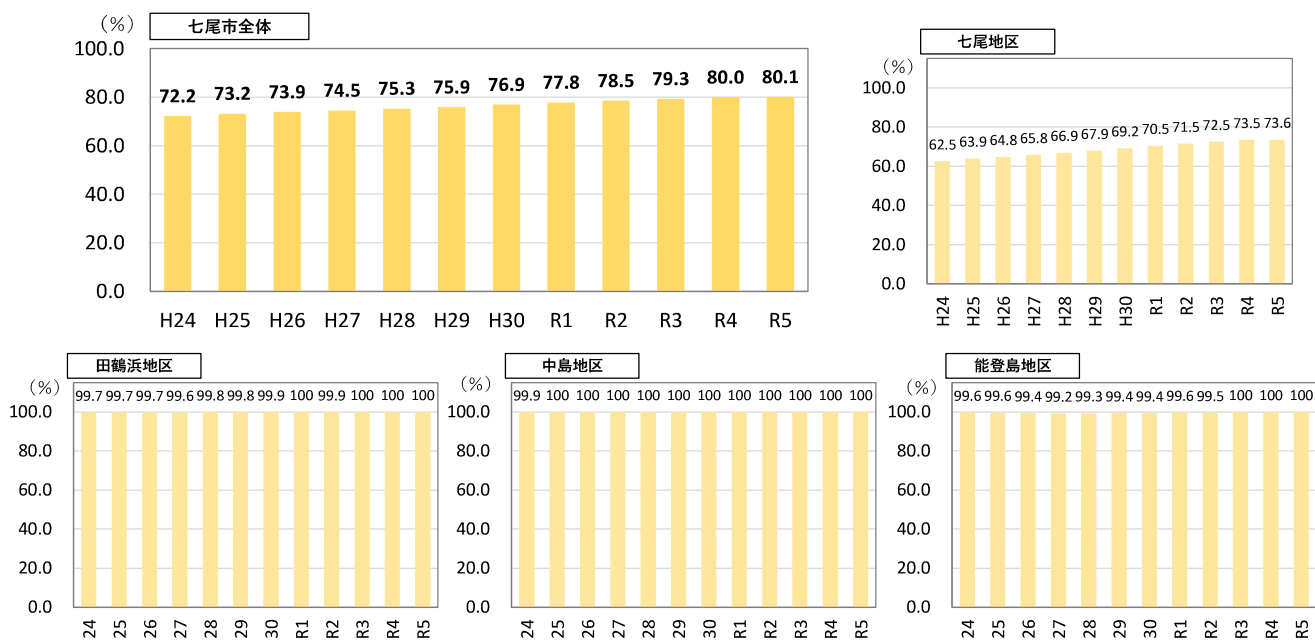
図 1-46 混雑度の状況

1-9.下水道

七尾市の下水道は、各処理区で公共下水道事業、集落排水事業、合併処理浄化槽等の事業により整備が進められてきている。七尾地区が他地区と比べて下水道普及率が低く、七尾処理区における公共下水道の整備を進めることが必要な状況である一方、能登半島地震で被災した管路の復旧・更新を優先して実施しているのが実情となっている。



図1-47 下水道処理区域図

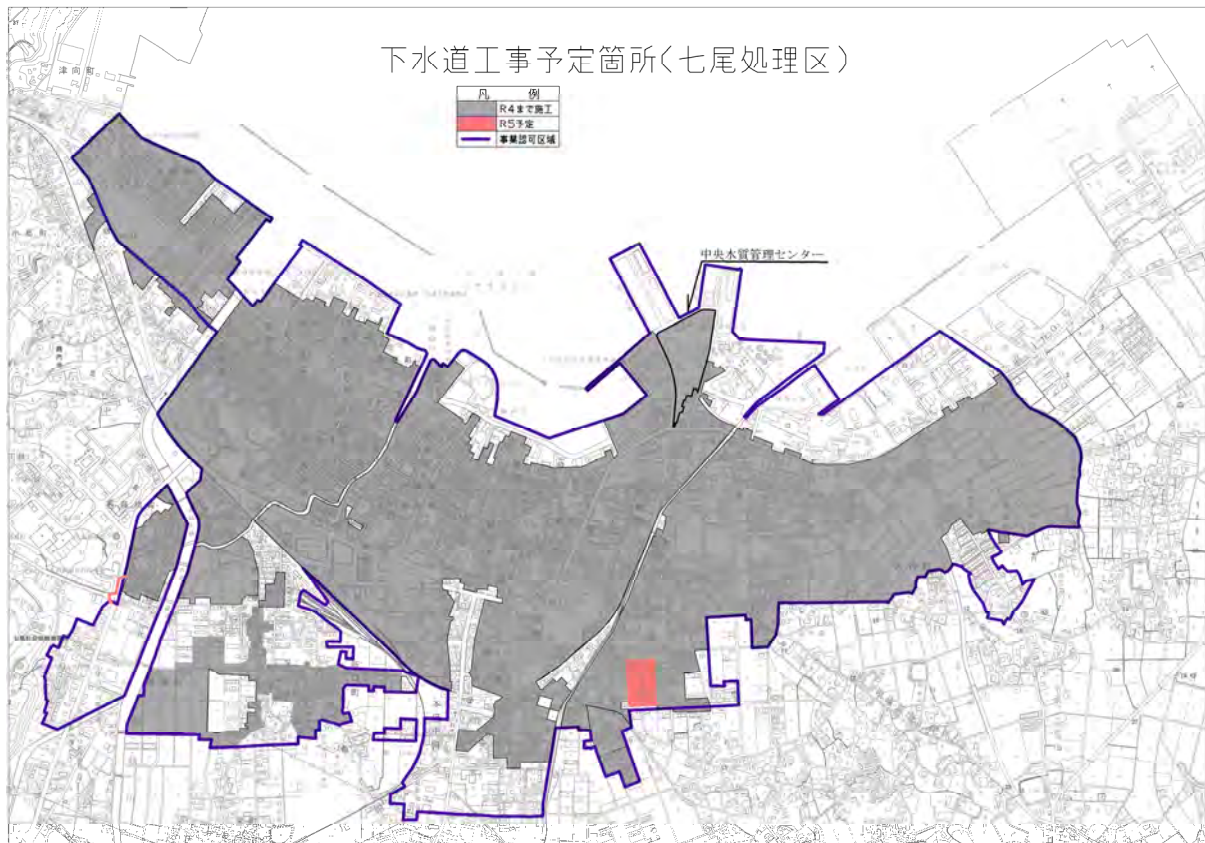


※公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水施設、漁業集落排水施設、合併処理浄化槽等を対象

※普及率＝供用開始区域内人口／行政区内人口×100

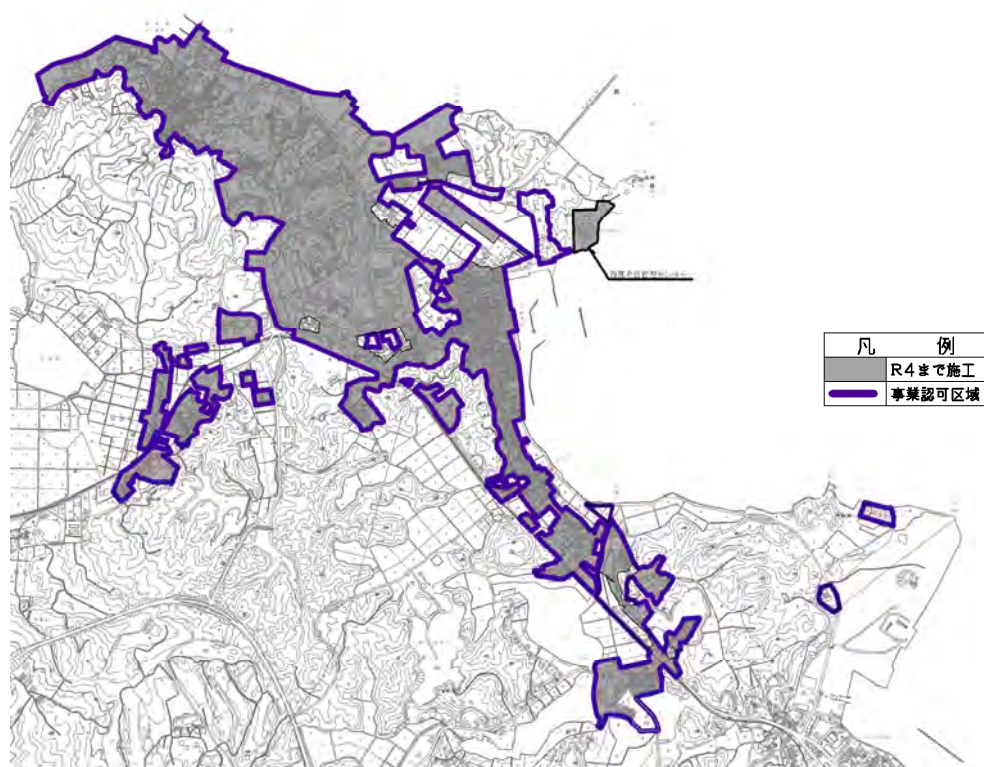
出典) 七尾市統計書（上下水道課）

図1-48 下水道普及率の推移



出典) 七尾市 HP

図1-49 下水道整備状況(七尾処理区)



出典) 七尾市 HP

図1-50 下水道整備状況(和倉処理区)